

令和5年度

京都成安学園事業報告書



学校法人京都成安学園

目 次

I 法人の概要

1	京都成安学園 建学の精神 「成安・誠と熱・実践教育」 …	1
2	京都成安学園 校訓 「誠と熱」 ……………	1
3	京都成安学園の沿革と歴代理事長 ……………	2
4	学校法人の名称等 ……………	4
5	設置する学校 ……………	4
6	役員の概要 ……………	6
7	評議員の概要 ……………	7
8	特別顧問の概要 ……………	8
9	職員の概要 ……………	9
10	理事会、評議員会の開催状況 ……………	9
11	監事による監査の実施状況 ……………	10
12	内部監査の実施状況 ……………	11

II 事業の概要

1	大学の事業の概要 ……………	13
2	幼稚園の事業の概要 ……………	57
3	法人の事業の概要 ……………	67
4	学納金等……………	68

III 財務の概要

1	令和5年度決算の概要 ……………	69
2	経年比較 ……………	57
3	借入金等の状況 ……………	62

I 法人の概要

1 京都成安学園 建学の精神 「成安・誠と熱・実践教育」

京都成安学園の歴史は、大正 9(1920)年 7 月 17 日、学祖 瀬尾チカが成安裁縫学校の設立を京都府知事から認可されたときから始まります。

京都成安学園では、学園名だけでなく成安裁縫学校以来これまで設置してきたすべての学校名に成安という言葉が冠してきました。設立当時は「心身ノ鍛錬、誠実勤勉ノ美德、経済的ニ独立シ得ル実力ノ養成ニ努メ、内ニ在リテハ則チ家庭ノ主婦トシテ、良妻トナリ賢母トナリテ、家ヲ治メテソノ繁栄ヲ計リ、出デテハ則チ国家ノ良民トシテ、国運ノ進展ニ寄与シ得ル新時代ノ婦人ヲ養成スル」ことを目的としていたことから、それらを要約し「成安」と名付けました。時代の変遷に伴い、現在では「成安」について「成とは成し遂げること。安とは安寧であること。つまり成安とは人の和を大切に、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、心安らぐ平和な社会をつくることに貢献するという意味である。」と解釈しています。

学祖は、学習と実行の上には、事の大小にかかわらず、誠と熱とをもって終始するよう毎日の生活を鞭撻しており、これが学園の指導精神であること、そして、正しい信念からほとぼしり出る純真な誠とすべてのものを生かし得る熱をもって生徒に対して範を示さなければ、学校教育において「成安」という言葉が意味するところの目的を達することはできないと説いています。学祖の人生訓でもある「誠と熱」、誠実さと熱意と置き換えても良いこの言葉は、学園の建学の精神であるとともに校訓として、学園に関わる全ての者の歩むべき道筋を照らしています。

設立当時の成安裁縫学校の校則第 1 条には「本校ハ時代ノ進歩ニ伴ヒ最モ新ラシキ和洋裁縫及ビ実用的手芸ノ一般ヲ教授シ併テ自活学習ノ便ヲ与エ兼テ婦徳涵養ニ資スルヲ以テ目的トス」と謳われており、女性に自活できる能力を修得させることが学校設立の趣旨でありました。こうした女性の社会的・経済的地位を向上しようとする先進的な取り組みは、瀬尾チカの体験に裏付けられた確固たる信念に基づくものでした。以来、社会で役立つ知識や技能を修得させる教育、すなわち「実践教育」は本学園における学校づくりの基本的な考え方となっています。

2 京都成安学園 校訓 「誠と熱」

3 京都成安学園の沿革と歴代理事長

大 正

- 大正 9年 創立者瀬尾チカ 京都市上京区（現左京区）聖護院西町に成安裁縫学校創立。
- 大正10年 校名を京都成安技芸女学校と改称し上京区（現左京区）北白川追分町に移転。
- 大正12年 京都成安女子学院と改称。普通部と専攻部を併設。
- 大正14年 普通部を高等女学部と改称。

昭 和

- 昭和 2年 京都市上京区相国寺北門前町に移転。
- 昭和 3年 成安高等継日女学校を併設。
- 昭和 5年 成安幼稚園開設。
- 昭和 7年 専攻部に保育科併設。財団法人京都成安女子学園設立。
- 昭和15年 京都成安高等女学校(本科、補習科)を設立。
- 昭和18年 高等女学部本科・高等女学校補習科廃止。
- 昭和19年 京都成安高等女学校専攻部に経済科を併設。
- 昭和20年 京都成安女子学院裁縫部廃止。附設課程専攻科設置。
- 昭和21年 京都成安女子専門学校(被服科・経済科)設立。成安高等女学校に夜間部開設、生産科を開設。
- 昭和22年 成安女子中学校開設。京都成安女子学院専攻部の家庭科、保育科を廃止。
- 昭和23年 京都成安高等女学校を廃止。成安高等継日女学校廃止。京都成安高等学校(通常及び夜間)開設。
- 昭和25年 京都成安女子専門学校廃止。成安女子短期大学(被服科)設置、開校。高等学校(普通・家政・被服)三課程を置き、夜間を廃止。京都成安短期大学を成安女子短期大学に、京都成安高等学校を成安女子高等学校に、京都成安中学校を成安女子中学校に改称。
- 昭和26年 財団法人京都成安女子学園を学校法人京都成安女子学園に改組。成安女子短期大学別科被服専修第一部・第二部増設。
- 昭和32年 高等学校家政科を廃止。高等学校に商業科を設置。普通科・被服科の三科を併設。

平成25年 成安造形大学開学20周年記念事業実施。

- 昭和33年 成安女子短期大学に意匠科増設。
- 昭和50年 成安向日幼稚園設立。
- 昭和51年 成安幼稚園を開園。成安向日幼稚園を成安幼稚園と改称。
- 昭和56年 成安女子短期大学意匠科を造形芸術科に改称。短期大学附属画廊完成。
- 昭和62年 成安女子短期大学長岡京新キャンパス完成、移転開学。

平 成

- 平成 2年 成安女子短期大学被服科を服飾文化学科と改称。
- 平成 3年 成安造形大学設置認可申請。昭和31年度より募集停止中の成安女子中学校の募集を再開。
- 平成 4年 成安造形大学設置認可。学位授与機構による成安女子短期大学専攻科造形芸術専攻2年制課程の認定。
- 平成 5年 学校法人名を京都成安学園に改称。成安造形大学開学。短期大学校名を成安造形短期大学に改称。
- 平成 8年 学位授与機構による成安造形短期大学専攻科服飾文化専攻2年制課程の認定。
- 平成12年 中学校・高等学校名を京都成安中学校・京都成安高等学校に改称。
- 平成14年 成安造形短期大学の設置者を学校法人大阪成蹊学園に変更。
- 平成19年 京都成安中学校、京都成安高等学校の設置者を学校法人京都産業大学に変更。
- 平成20年 成安造形大学附属近江学研究所を開設。
- 平成21年 成安造形大学造形学部デザイン科・造形美術科を芸術学部芸術学科に改組すること、募集定員を285名から200名に変更することを文部科学省に届出し、受理。
- 平成22年 成造形大学造形学部デザイン科・造形美術科を募集停止し、芸術学部を設置(届出)。
学校法人京都成安学園創立90周年記念式典挙行。

平成29年 成安造形大学造形学部デザイン科、造形美

術科を廃止。

平成30年 成安造形大学学生専用アパートメントYOHA
KU 竣工

令和

令和 2年 学校法人京都成安学園創立100周年を迎える。

成安幼稚園開園90周年を迎える。

学園創立100周年記念事業として、成安幼稚園遊戯棟、第二保育棟、第三保育棟を解体し、新棟を建設。

令和 3年 学園創立100周年記念事業として、成安造形大学のエントランス部の改修と構内に作品を設置。

令和 4年 成安造形大学学生専用アパートメントYOHA
KUⅡ 竣工。

令和 5年 成安造形大学開学30周年。

歴代理事長（学校法人設立以降）

初代理事長 瀬尾 チカ （昭和26年）

第二代理事長 後藤 龍太郎（昭和32年）

第三代理事長 瀬尾 登美子（昭和40年）

第四代理事長 井筒 與兵衛（昭和50年）

第五代理事長 井筒 邦雄 （平成8年）

第六代理事長 中 明夫 （平成11年）

第七代理事長 木村 至宏 （平成19年）

第八代理事長 近藤 功 （平成21年）

第九代理事長 小林 徹 （平成25年）

第十代理事長 山田 崇 （令和 6年）

※（ ）は就任年

4 学校法人の名称等

- (a) 法人の名称
学校法人京都成安学園
- (b) 主たる事務所の所在地
滋賀県大津市仰木の里東四丁目3番1号 (〒520-0248)
電話番号 077-571-0850
ファックス 077-574-2120
HP.アドレス <https://www.seian.ac.jp/about/seiangakuen/>

5 設置する学校

(1) 成安造形大学

- (a) 学長
小寄 善通
- (b) 開設
平成5年
- (c) 所在地
滋賀県大津市仰木の里東四丁目3番1号 (〒520-0248)
- (d) 校地面積及び建物面積
校地面積 55,354.26㎡ (設置基準面積 8,200.00㎡)
建物面積 20,668.10㎡ (設置基準面積 8,090.00㎡)
- (e) 設置学部・学科
芸術学部芸術学科
- (f) 定員及び現員

令和5年5月1日現在 単位：人

学部・学科			1年次	2年次	3年次	4年次	合計
芸術学部	芸術学科	定員	220	204	204	210	838
		現員	253	206	249	221	929
合計		定員	220	204	204	210	838
		現員	253	206	249	221	929

注. 芸術学部3年次編入学定員は10名。

[男女別現員]

令和5年5月1日現在 単位：人

学部・学科		1年次		2年次		3年次		4年次		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
芸術学部	芸術学科	79	174	59	147	92	157	66	155	296	633
合計		253		206		249		221		929	

[領域別現員]

令和5年5月1日現在 単位：人

領域	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
総合領域	20	9	16	16	61
イラストレーション領域	104	96	105	96	401
美術領域	47	33	38	28	146
情報デザイン領域	46	38	48	40	172
空間デザイン領域	31	26	32	24	113
地域実践領域	5	4	10	17	36
合計	253	206	249	221	929

(g) 入学定員及び充足率（5年間）の推移

令和5年5月1日現在 単位：人

学部・学科			令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
芸術 学部	芸術学科	入学定員	200	200	200	200	220
		現員	235	234	230	221	243
合計		充足率 (%)	117.5	117.0	115.0	110.5	115.0

(h) 収容定員及び充足率（5年間）の推移

令和5年5月1日現在 単位：人

学部・学科			令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
芸術 学部	芸術学科	収容定員	820	820	820	820	838
		現員	943	949	921	920	929
合計		充足率 (%)	115.0	115.7	112.3	112.2	110.9

(2) 成安幼稚園

(a) 園長

藤田 朋美

(b) 開設

昭和50年

(c) 所在地

京都府向日市寺戸町八反田3番1号（〒617-0002）

(d) 校地面積及び建物面積

校地面積 2,667.00㎡、建物面積 1,155.59㎡（設置基準面積 920.00㎡）

(e) 定員及び現員

令和5年5月1日現在 単位：人

	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	104	105	105	314
現員	42	45	63	150

[男女別現員] 令和5年5月1日現在 単位：人

	3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
現員	24	18	17	28	27	36	68	82
合計	42		45		63		150	

6 役員概要

(1) 理事 理事定数：6人以上12人以内（現員：10人） 令和6年3月31日現在

役職名	氏名	寄附行為上の選任条項	摘要
理事長	小林 徹	第6条第1項	非常勤 平成25年4月1日 理事長就任
専務理事	山下 英利	第6条第2項	非常勤 令和2年4月1日 専務理事就任
常務理事	山田 崇	第6条第3項	非常勤 令和5年6月1日 常務理事就任
理事	小嵯 善通	第7条第1項第1号 大学長	常勤 令和3年4月1日 大学長就任 令和3年4月1日 理事（第1号）就任
	岩本 洋子	第7条第1項第2号 評議員	非常勤 平成11年4月26日 理事就任 岩本法律事務所 代表
	目片 信悟	第7条第1項第2号 評議員	非常勤 令和2年4月1日 理事就任 滋賀県議会議員
	山田 崇	第7条第1項第2号 評議員	非常勤 令和2年4月1日 理事就任 大津商工会議所 常務理事
	小林 徹	第7条第1項第3号 学識経験者	非常勤 平成22年4月1日 理事就任 オプテックスグループ株式会社取締役相談役
	山下 英利	第7条第1項第3号 学識経験者	非常勤 平成28年4月1日 理事就任 滋賀県農業共済組合 組合長
	岡田 修二	第7号第1項第3号 学識経験者	常勤 令和3年4月1日 理事（第3号）選任条項変更
	畠山 義隆	第7号第1項第3号 学識経験者	常勤 平成28年4月1日 理事就任 法人本部長
	人長 信昭	第7号第1項第3号 学識経験者	非常勤 令和2年4月1日 理事就任 成安造形大学 名誉教授
	西久松吉雄	第7号第1項第3号 学識経験者	非常勤 令和2年4月1日 理事就任 成安造形大学 名誉教授

※第7条第1項第2号理事は評議員のうちから評議員会において、第3号理事は学識経験者のうちから理事会において選任。

(2) 監事 監事定数：2人以上3人以内（現員：2人）

令和6年3月31日現在

役職名	氏名	寄附行為上の選任条項	摘要
監事	三浦 常治	第8条	非常勤 令和2年4月1日 監事就任 学校法人村上学園 評議員
	藤野 一郎	第8条	非常勤 令和3年4月1日 監事就任

7 評議員の概要

評議員定数：16人以上25人以内（現員：21人）

令和6年3月31日現在

氏名	寄附行為上の選任条項	摘要
泊 博雅	第23条第1項第1号 法人職員(理事会推薦・評議員会選任)	大学部門（大学教授・副学長） 令和3年4月1日 評議員就任
日比野文孝	第23条第1項第1号 法人職員(理事会推薦・評議員会選任)	大学部門（大学・総務部長） 令和5年4月1日 評議員就任
藤田 朋美	第23条第1項第1号 法人職員(理事会推薦・評議員会選任)	幼稚園部門（園長） 平成27年4月1日 評議員就任
川満 真也	第23条第1項第2号 卒業生(理事会選任)	成安造形大学卒業生（同窓会長） 平成12年5月26日 評議員就任 株式会社ブレーンセンター
福井 千波	第23条第1項第2号 卒業生(理事会選任)	成安造形大学卒業生 令和5年4月1日 評議員就任 特定非営利活動法人komado 代表取締役
小林 徹	第23条第1項第3号 理事(理事会選任)	京都成安学園 理事長 平成25年5月1日 評議員就任 オプテックスグループ株式会社 取締役相談役
小寄 善通	第23条第1項第3号 理事(理事会選任)	京都成安学園 理事 令和3年4月1日 評議員就任 成安造形大学 学長・教授
坂井 昇	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	卒業生の保護者 平成16年4月1日 評議員就任 洛陽総合高等学校 非常勤講師
山本 昌和	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	卒業生の保護者 平成16年4月1日 評議員就任
岩本 洋子	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成11年4月26日 評議員就任 京都成安学園 理事 岩本法律事務所 代表
目片 信悟	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成17年4月1日 評議員就任 滋賀県議会議員

石丸 正運	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成26年4月1日 評議員就任 (公財)秀明文化財団 専務理事 公益財団法人秀明文化財団専務理事
山田 崇	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成30年7月1日 評議員就任 大津商工会議所 常務理事
花山 智久	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成28年4月1日 評議員就任
木村 至宏	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成27年4月1日 評議員就任 成安造形大学 名誉教授 附属近江学研究所 顧問
岸野 洋	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 平成29年4月1日 評議員就任 NPO法人比良比叡自然学校常務理事
松本 隆	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 令和2年4月1日 評議員就任 学校法人松風学園 理事長 松金工業株式会社 取締役会長
佐藤 祐子	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 令和2年4月1日 評議員就任 株式会社国華荘 代表取締役社長 おごと温泉観光協会 会長
小山 昌英	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 令和2年4月1日 評議員就任 宗教法人神慈秀明会事務局長
辻 喜代治	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 令和3年5月29日 評議員就任 成安造形大学 名誉教授
久保田繁雄	第23条第1項第4号 学識経験者(理事会選任)	保護者以外の学識経験者 令和5年4月1日 評議員就任 大阪成蹊大学 名誉教授

※評議員の就任年月は、当該選任条項に係る評議員就任年月を表示。

8 特別顧問の概要

令和6年3月31日現在

氏名	摘要
草木 輝子	平成12年4月1日－平成17年3月31日 成安幼稚園長、平成14年4月1日－平成17年3月31日 京都成安学園 理事 平成17年4月1日 特別顧問就任
大野 俊明	平成26年4月1日 成安造形大学 名誉教授 平成26年4月1日 特別顧問就任 令和2年4月1日 成安造形大学 客員教授
牛尾 郁夫	平成21年4月1日－平成27年3月31日 成安造形大学長、京都成安学園 理事 平成27年4月1日 特別顧問就任

9 職員の概要

(1) 教育職員

(a) 成安造形大学

令和5年5月1日現在 単位：人

学部	学科	設置基準上 必要専任教育職員数		専任教育職員数					非常勤 講師
		学科	大学全体	教授	准教授	講師	助教	助手	
芸術学部	芸術学科	14	13	23	13	3	7	7	139
合計 (うち教授数)		27 (14)		46 (23)					

注1. 専任教員には任期制教員を含む。

注2. 専任教員数の合計は、授業を担当しない助手 7 人を除く。

注3. 本表と別に、客員教員・招聘教員がいる。

(b) 成安幼稚園

令和5年5月1日現在 単位：人

専任教育職員	常勤講師	合計	非常勤講師
5	5	10	6

(2) 事務職員

令和5年5月1日現在 単位：人

	専任事務職員	技能職員	合計	臨時職員
法人本部	2	0	2	0
大学	32	8	40	25
幼稚園	3	1	4	1
合計	37	9	46	26

注1. 臨時職員は、5月1日現在で契約している者のうち、契約期間が2ヶ月を超える者

注2. 専任事務職員には職務限定職員、契約事務職員を含む

10 理事会、評議員会の開催状況

令和5年度の理事会は計10回開催し、理事の平均出席率は100.0%（令和4年度開催回数13回・理事平均出席率100.0%）でした。また、評議員会は計3回開催し、評議員の平均出席率は100.0%（令和4年度開催回数3回・評議員平均出席率98.4%）でした。

※理事会、評議員会とも書面による意思表示を含む。

1.1 監事による監査の実施状況

(1) 監査の基本方針

本法人の建学の精神のもと、設置校が掲げる教育理念に沿って教育目標を達成するための活動ができているかという観点に立ち、法人・各部門及び理事の業務執行状況並びに財産管理の適切性について監査を行いました。

これは、本法人の教育・研究機能の向上と財政基盤の確立に寄与し、以て法人の健全な発展及び効率的な運営に資することを目的とするもので、さらに内部監査室及び会計監査人との密なる連携に努め、監査人会（監事・内部監査室・会計監査人）を通して十分に意思疎通を図り、実効性の高い監査の実現をめざすものです。

(2) 監査体制

監事2人は概ね週2日出校し、うち1日は同一曜日として監事双方の情報共有・意見交換を行うなど、恒常的に監査業務に携わりました。

(3) 監査実施内容と実施方法、監査項目

監査の方法は、予め提出を求めた関連資料をもとに、担当責任者及び担当者等からのヒアリングにより実施しました。令和5年度の各回の監査項目は次のとおりです。

	監査項目	監査対象
1	・学習成果可視化システムの運用について	大学 教学課長補佐
2	・公的研究費の運営・管理に係る現状と課題について	大学 研究・連携支援課長
3	・個人研究費の運営・管理に係る現状と課題について ・令和5年度事業計画の執行状況と課題について 人事管理システムの運用について 電子帳簿保存法への対応について	大学 総務課長
4	・令和5年度事業計画の執行状況と課題について センターとしての今後の在り方について キャリア科目について センター規程について 留学生対応について	大学 キャリアサポートセンター事務課長
5	・令和5年度事業計画の執行状況と課題について クリエイティブサポート整備検討委員会の答申を受けて 新規機器の購入について 人力的課題について ラボの現状について 図書館の利用状況について	大学 クリエイティブサポート事務課長
6	・令和5年度事業計画の執行状況と課題について 新たな支援体制の構築について 初年度教育の見直しについて 新学事システムの導入後の運用について 学生会組織の活動について	大学 教学課長
7	・令和5年度事業計画の執行状況と課題について 募集体制の再構築について 広報業務の効率化について	大学 入学広報課長

	教育連携推進の在り方について アドミッションポリシーの見直しについて	
8	・令和5年度事業計画の執行状況と課題について 幼稚園バスの安全装置の設置について 預かり保育及び3歳児保育の現状について 広報及び情報の発信について 教育の質向上について 大学や小学校との連携について 危機管理について	幼稚園 幼稚園長
9	・中期計画及び令和5年度事業計画の執行状況と課題について 大学運営体制の将来展望について 大学定員増についての将来計画について 大学設置基準改正の対応について	大学 事務局長

(4) 監査人会の実施

公認会計士による監査期日に合わせ、公認会計士、内部監査室長及び監事を構成とした監査人会を5回（令和5年4月4日、5月23日、9月11日、11月20日、令和6年2月7日）実施しました。

監事、内部監査室、公認会計士のそれぞれの監査状況や問題点を報告し、情報の共有・意見交換を行いました。

1.2 内部監査の実施状況

(1) 内部監査の基本方針

本法人の経理及び一般業務について誤謬あるいは脱漏を防止し、かつ業務全般にわたる管理運営について、合法性と合理性の観点から検討及び評価し、もって経営の改善及び業務能率の向上を図り、本法人の健全な運営を確保し、発展に資することを目的に監査を実施しました。

(2) 内部監査体制

内部監査室は令和4年4月に設置し体制を整えました。理事長に監査方針、監査計画を提案し業務をすすめました。また、監事と情報共有・意見交換を行うなどの連携を行いました。

監査人会では、会計監査、監事監査、内部監査それぞれの監査状況や問題点を報告し、情報の共有・意見交換を行いました。

(3) 内部監査実施内容と実施方法、監査項目

監査の方法は、関連資料を確認するとともに、必要に応じて担当等からのヒアリングにより実施しました。令和5年度の監査項目は次のとおりです。

	監 査 項 目	監 査 対 象
1	令和5年度科学研究費助成事業について	大学 当該研究費受給研究者 研究・連携支援課
2	令和5年度研究不正防止の取組みについて	大学 研究不正防止推進会議 研究・連携支援課
3	令和5年度成安造形大学特別研究助成について	大学 当該研究費受給研究者 研究・連携支援課
4	令和4年度成安造形大学個人研究費について	大学 当該研究費受給研究者

		総務課
5	高額備品の管理・運用（利用）状況について	大学・幼稚園 当該部署等
6	可搬性の高い備品の管理・運用（利用）状況について	大学・幼稚園 当該部署等
7	新学事システムについて	大学 教務委員会・教学課
8	教室（保管庫）等の有効活用について	大学 各領域・各事務部署
9	令和4年度出退勤管理に関すること	大学・幼稚園 全部署等
10	令和4年度旅費交通費の執行状況について	大学・幼稚園 教職員
11	前年度のフォローアップ① 入学者選抜規程等について	大学 入学員会・入学広報課
12	前年度のフォローアップ② 学籍事務の取扱について	大学 教務委員会・教学課

(4) モニタリング

諸施策の業務執行に関する手続状況について、評議員会への陪席、機関会議の議事録の閲覧、学園諸規程との整合性のチェックなどにより、学園の方向性を常に把握しながら適正性を確認しました。

II 事業の概要

1 成安造形大学の事業の概要

成安造形大学の基本理念（教育理念） 「芸術による社会への貢献」

私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯（しんし）な教育と研究を通して広く社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉（せいれん）な人材を輩出する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき人門を目指す。

私たちは今、自らの文化や精神性を改めて深く認識し、それらをしっかり引き継ぐことを真剣に考えねばならない時代にある。芸術の果たす役割もますます大きくなっていくに違いない。その中で私たちは、芸術大学の今日的意義を模索し、あるべき姿を追い求める。そして、新たな芸術観の確立に向けて研鑽（けんさん）を重ね、公正なまなざしで自らの社会性を高め、創造性豊かな提案を続けていく。

私たちは、学びのクオリティーにこだわる。総合性と専門性を両立しうる高度なカリキュラムを準備するとともに、和気藹々（あいあい）と心地よく学べるゆきとどいた教育環境を整える。学生一人ひとりの個性としっかり向き合い、持てる力を大きく引き出す少人数教育を行う。

私たちは、造形にもとづく叡知（えいち）を開く。ものをかたちづくるその過程において、多くを学び、心が生き生きする出会いの瞬間を見いだす。自然や素材と交わる経験を通して、学生たちが感性を大きく伸ばせる実践教育を行う。

私たちは、決して揺るがない。自らの芸術を実現し、高く成し遂げるための信念において揺るがない。なぜなら、本学には校訓「誠と熱」が脈々と息づいているからである。私たちは、私たちの起源であるその盤石（ばんじゃく）の精神を継承し、さらに発展させ、学生たちに伝えていく。

私たちは、この場所から始めていく。この場所から生み出していく。学生たちとともに、多くの人々との交流と連携を進め、芸術の力で地域を活性化させる。そして私たちは、美しい湖国 唯一の芸術大学であるという自負を携え、その熱き鼓動を世界に向けて響かせる。

成安造形大学の目的と学部・学科の人材育成目的

【大学の目的】

成安造形大学は、デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理論、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与することを目的とする。（学則第1条）

【学部・学科の人材育成目的】

建学の精神、校訓、及び基本理念（教育理念）の下、芸術分野の専門性と創造性（クリエイティブティ）に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的とする。

成安造形大学のポリシー

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）】

成安造形大学は、建学の精神、校訓、及び基本理念（教育理念）に共感し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するために必要となる次のような学力や資質を備えた人を求める。

(1) 学力

高等学校等において「学力の3要素」(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)が培われている。

(2) 実践力

専門分野をいかし、社会の中で実践する意欲がある。

(3) 創造力

自らの創造性(クリエイティビティ)を伸ばす意欲がある。

(4) 課題解決力

課題を解決する能力を伸ばす意欲がある。

(5) 協働力

課題をやり遂げるために、他の人々と協働する意欲がある。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)】

成安造形大学は、建学の精神、校訓、及び基本理念(教育理念)の下、芸術分野の専門性と創造性(クリエイティビティ)に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的を実現のために、本学では、所定の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、以下に示す資質・能力を修得した者に学位を授与する。

(1) 実践力

専門分野をいかし、社会の中で実践することができる。

(2) 創造力

専門分野における制作によって、獲得した知識・技能・態度等を総合的にいかし成果を提示できる。

(3) 課題解決力

課題を正しく理解し、解決策を立て実行することができる。

(4) 協働力

多様性の理解を深め、他者とともに行動し、集団や社会のために貢献することができる。

(5) 主体的行動力

自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ誠意と熱意をもって行動することができる。

【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)】

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)で示した目標を達成できるように、以下の方針にもとづき教育課程を編成する。

- 1 学修の順次性を明確にし、芸術分野における実践力、創造力、課題解決力、協働力、および主体的行動力を養成するカリキュラムを構築する。
- 2 1年前期・後期を《専門導入課程》、2年前期・後期 3年前期・後期を《専門基盤課程》、4年前期・後期を《専門研究課程》の3段階で編成する。各科目を「専門科目」と「学部共通科目」に分類する。
- 3 学習成果を、各科目において掲げる学修目標への到達度により厳正に評価する。《専門研究課程》に進むにあたり、主体的に研究を行う能力の有無を見極める進級審査を実施する。
- 4 導入教育を充実させて以後の学びを進めるために必要な汎用的基礎力(協働力および主体的行動力)と課題解決力を養成し、またそれぞれが学ぶ専門分野と密接に結びついた創造力および実践力を確立できる科目を設置する。

- a. 「専門科目」では、課程に応じて「専門導入科目群」、「専門基盤科目群」、「専門研究科目群」の3つの段階で履修する。「専門導入科目群」では専門分野を修めるために必要不可欠な最低限の知識や技能を養うための実習科目と演習科目が、「専門基盤科目群」では各自の専門領域の基盤となる知識や技術を修得することで専門性を深く究めるための実習科目と演習科目がある。「専門研究科目群」ではゼミ段階的な履修や選択的な履修をもとに、各自の専門領域にかかわる知識や技術を広く修得することを通して、より高度な表現力や思考力を獲得するとともに、各自が主体的に自律的研究を進め、専門性を深く究めるための科目、卒業研究を設置している。
- b. 「学部共通科目」は専門分野の研究やその後の進路を支える広範な学びを提供する科目で、「基礎科目群」、「応用科目群」、「教養科目群」、「社会実践科目群」の4つを大きな柱としている。

「基礎科目群」では、4年間の大学生活を自主的かつ円滑に進めるために必要な基礎的学力を身につけるスタートプログラム科目や芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び、広範な造形活動を支える芸術基礎科目、基本的な造形力を幅広く身につけるファウンデーション科目で構成されている。

「応用科目群」では、広範な芸術活動の専門性を理論的、実践的に支え、各領域の専門基盤課程、専門研究課程において必要とされる専門的知識・技能を習得するための芸術応用科目を提供する。

「教養科目群」には幅広い視点から造形活動を捉えることができる資質を獲得するための教養科目、異文化コミュニケーション能力を身につけるための外国語科目がある。また、単位互換協定を締結した大学、短期大学の科目を受講することもできる。

「社会実践科目群」は、社会との関係のなかで自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群である。地域貢献・プロジェクト科目は、地域社会における実践的な学びで、課題解決力を養う科目である。また、キャリアデザイン科目は、段階的な学びにおいて各自の目標に合わせたキャリアデザインを構築するための科目である。

【アセスメント・ポリシー】

成安造形大学は、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに則した独自の評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価するよう定めています。

測定・評価は学生の入学時から卒業時までを視野に入れ、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの3つのレベルにおいて多面的に行うこととし、各時点・各レベルに以下のような指標を配置します。

	入学時	在学中	卒業時
機関 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前プログラム ・調査書等の記載内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・休学率 ・退学率 ・満足度調査 (隔年調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・就職率 ・進学率 ・学位授与数
教育課 程 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA ・進級率 ・休学率 ・退学率 ・修得単位数 ・満足度調査 (隔年調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA ・資格、免許取得状況 ・単位修得状況 ・学習成果アンケート調査 ・就職率 ・進学率 ・学位授与数

科目 レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ PCアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価 ・ 授業アンケート ・ 学修ポートフォリオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究制作成果の公表 ・ 学修ポートフォリオ
-----------	---	--	--

成安造形大学の沿革

平成 3(1991)年	7月	成安造形大学の設置認可を申請
平成 4(1992)年	12月	成安造形大学の設置が認可
平成 5(1993)年	4月	滋賀県大津市に成安造形大学（造形学部デザイン科、造形美術科）開学・入学定員は140人（デザイン科80人、造形美術科60人）・初代学長に井筒與兵衛就任（理事長兼務）
平成 6(1994)年	6月	学校法人京都成安学園（成安造形大学・成安造形短期大学）と英国・ド・モンフォート大学（DE MONTFORT UNIVERSITY）との友好交流協定締結
	6月	学校法人京都成安学園（成安造形大学・成安造形短期大学）と英国・ド・モンフォート大学（DE MONTFORT UNIVERSITY）との友好交流協定書に基づく教職員の派遣及び相互交流に関する覚書締結
	6月	学校法人京都成安学園（成安造形大学・成安造形短期大学）と英国・ド・モンフォート大学（DE MONTFORT UNIVERSITY）との友好交流協定書に基づく留学生の受け入れに関する覚書締結
平成 8(1996)年	8月	第2代学長に田邊徹就任
平成 9(1997)年	3月	第1期生が卒業
平成 12(2000)年	8月	第3代学長に木村至宏就任
平成 13(2001)年	1月	実習 G・H 棟竣工
平成 14(2002)年	4月	入学定員を260人（デザイン科160人、造形美術科100人）に変更
		開学10周年を機にスクールバス運行開始
平成 15(2003)年	2月	実習 I・J 棟、聚英館竣工
	5月	成安造形大学と京都市教育委員会との「学生ボランティア」学校サポート事業における学生の派遣に関する協定締結
	5月	成安造形大学開学10周年記念式典を挙げる
平成 16(2004)年	3月	大津市と成安造形大学との協力に関する協定締結
	10月	成安造形大学と京都信用金庫との産学連携に関する業務連携・協力に関する覚書締結
		セルフビルドによるカフェテリア「結」完成
	12月	成安造形大学と京都中央信用金庫との産学連携に関する業務連携・協力に関する覚書締結
平成 17(2005)年	3月	成安造形大学と滋賀県教育委員会との連携協力に関する協定締結
平成 18(2006)年	4月	学校法人京都成安学園 成安造形大学と中小企業金融公庫大津支店との産学連携の協力推進に係る協定締結
平成 19(2007)年	4月	入学定員を285人（デザイン科185人、造形美術科100人）に変更
	12月	高島市と成安造形大学との地域連携にかかる協定締結
平成 20(2008)年	3月	滋賀県立近代美術館と成安造形大学との相互協力にかかる協定締結
	4月	附属近江学研究所を開設
平成 21(2011)年	4月	第4代学長に牛尾郁夫就任
	5月	地域と産業の活性化を図る三重県と成安造形大学の連携に関する協定締結
	11月	英国・バース・スパ大学（BATH SPA UNIVERSITY）と成安造形大学との学術交流に関する協定締結
平成 22(2010)年	3月	滋賀県と成安造形大学との連携・協力に関する協定締結
	4月	届出による芸術学部芸術学科（定員200人）設置
	4月	地域連携推進センターを設置
	5月	成安造形大学と英国・ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ

		(GOLDSMITHS, UNIVERSITY OF LONDON) との留学協定締結
	8月	草津市と成安造形大学との協力に関する協定締結
	10月	学校法人京都成安学園創立 90 周年記念事業により成安造形大学「キャンパスが美術館」を開館
	10月	学校法人京都成安学園創立 90 周年記念式典を挙行政 (年間をとおして記念事業を展開)
平成 23(2011)年	3月	財団法人日本高等教育評価機構を評価機関とする大学機関別認証評価を受審し、成安造形大学は「基準を満たしている」との認定を受ける
平成 24(2012)年	4月	学校法人松風学園彦根総合高等学校と学校法人京都成安学園成安造形大学との連携に関する協定締結
	4月	学校法人洛陽総合学院と学校法人京都成安学園との連携に関する協定締結
	11月	成安造形大学と米国・スクールオブヴィジュアルアーツ (SCHOOL OF VISUAL ARTS) 間の覚書締結
平成 25(2013)年	4月	成安造形大学開学 20 周年
	5月	開学 20 周年記念事業ホームカミングデー2013 を開催
	11月	開学 20 周年記念式典を挙行政
平成 26(2014)年	1月	英国・バース・スパ大学 (BATH SPA UNIVERSITY) と成安造形大学との学術交流に関する協定締結
	3月	開学 20 周年記念事業食堂棟リニューアルプロジェクト竣工
	4月	公益財団法人びわ湖ホールと学校法人京都成安学園 成安造形大学との連携・協力に関する協定締結
	4月	公益財団法人びわ湖ホールと学校法人京都成安学園 成安造形大学との連携事業に関する覚書締結
	6月	成安造形大学とドイツ・マンハイム専門大学 (HOCHSCHULE MANNHEIM – UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES) との間の学生および教職員の交換留学に関する協定締結
	6月	成安造形大学と一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との相互連携・協力体制構築に関する協定締結
	10月	学校法人松風学園・彦根総合高等学校と学校法人京都成安学園・成安造形大学との姉妹校協定締結
平成 27(2015)年	4月	第 5 代学長に岡田修二就任
	4月	公益財団法人びわ湖ホールと学校法人京都成安学園 成安造形大学との連携事業に関する覚書締結
	4月	滋賀県立琵琶湖博物館と成安造形大学との連携協定にかかる協定締結
	4月	学校法人洛陽総合学院・洛陽総合高等学校と学校法人京都成安学園・成安造形大学とのパートナーシップ協定締結
	4月	学校法人つくば開成学園と学校法人京都成安学園・成安造形大学とのパートナーシップ協定締結
	8月	聖泉大学と成安造形大学との事務職員の能力開発に関する連携協定締結
	9月	滋賀県中小企業団体中央会と成安造形大学との包括連携に関する協定締結
平成 28(2016)年	3月	公益財団法人日本高等教育評価機構を評価機関とする大学機関別認証評価 (第 2 クール) を受審し、成安造形大学は「大学評価基準に適合している」との認定を受ける
	3月	成安造形大学学生専用アパートメント「YOHAKU」A 棟供用開始
平成 29(2017)年	3月	成安造形大学造形学部デザイン科、造形美術科廃止
	4月	イラストレーション領域を 9 コースに改編

	4月	覚書(学校法人大覚寺学園との本学卒業生の嵯峨美術大学大学院への入学に係る入学金の減免に係る覚書) 締結
	4月	学校法人明珠学園・京都翔英高等学校と学校法人京都成安学園・成安造形大学とのパートナーシップ協定締結
	4月	学校法人 MIHO 美学院・MIHO 美学院中等教育学校と学校法人京都成安学園・成安造形大学とのパートナーシップ協定締結
	8月	成安造形大学学生専用アパートメント「YOHAKU」B棟供用開始
平成 30(2018)年	3月	成安造形大学学生専用アパートメント「YOHAKU」C棟供用開始
	4月	地域実践領域を開設
	4月	総合領域ならびに情報デザイン領域(旧メディアデザイン領域)を改編
	4月	教育連携推進センターを設置
	4月	覚書(学校法人桑沢学園との本学卒業生の東京造形大学大学院への入学に係る入学金の減免に係る覚書) 締結
平成 31(2019)年 令和 元(2019)年	4月	学生支援部教学課に留学生支援センターを設置
	7月	京都府と成安造形大学との京都府内の企業等への就職支援に取り組む連携及び協力に関する協定締結
令和 2(2020)年	4月	学校法人京都成安学園創立 100 周年 新型コロナウイルス感染症の流行により入学式を中止し、授業開始を 5 月 16 日から(遠隔授業のみで対面授業は 6 月 1 日～)に延期
	12月	滋賀県立信楽高等学校と学校法人京都成安学園・成安造形大学とのパートナーシップ協定締結
令和 3(2021)年	2月	第 1 回外部評価を実施
	4月	第 6 代学長に小嵯善通が就任 人材育成目的及び 3 つのポリシーを再規定 未来社会デザイン共創機構設立 ノートパソコン無償貸与制度開始
令和 4(2022)年	3月	学園創立 100 周年記念事業「クリエイティブキャンパス計画」エントランス改修竣工 公益財団法人日本高等教育評価機構を評価機関とする大学機関別認証評価(第 3 クール)を受審し、同機構の評価基準に適合と認定 基幹システム「Active Academy Advance」及びポータルサイト「Seian Active Portal」の運用開始 本学学生専用アパートメント「YOHAKU II」(第 1 期)供用開始
	5月	亀岡市とのインターンシップ実習生派遣に関する協定を締結
	8月	大阪中之島美術館との連携に関する協定を締結
令和 5(2023)年	4月	成安造形大学開学 30 周年 芸術学部芸術学科 1 年次入学定員 220 人、2 年次編入学定員 4 人、3 年次編入学定員 4 人に学則変更 イラストレーション領域を 4 コースに改編 本学学生専用アパートメント「YOHAKU II」(第 2 期)供用開始
	10月	コミュニティスペース結リニューアルオープン
	11月	開学 30 周年記念事業ホームカミングデー2023 開催
令和 6(2024)年	3月	新型コロナウイルス感染症の流行により入学式が中止となった令和 2 年度入学生に対する特別企画(琵琶湖ナイトクルーズ)を、第 28 回卒業証書・学位記授与式終了後に開催
	4月	附属近江学研究所設立 15 周年記念事業「近江学の日」開催

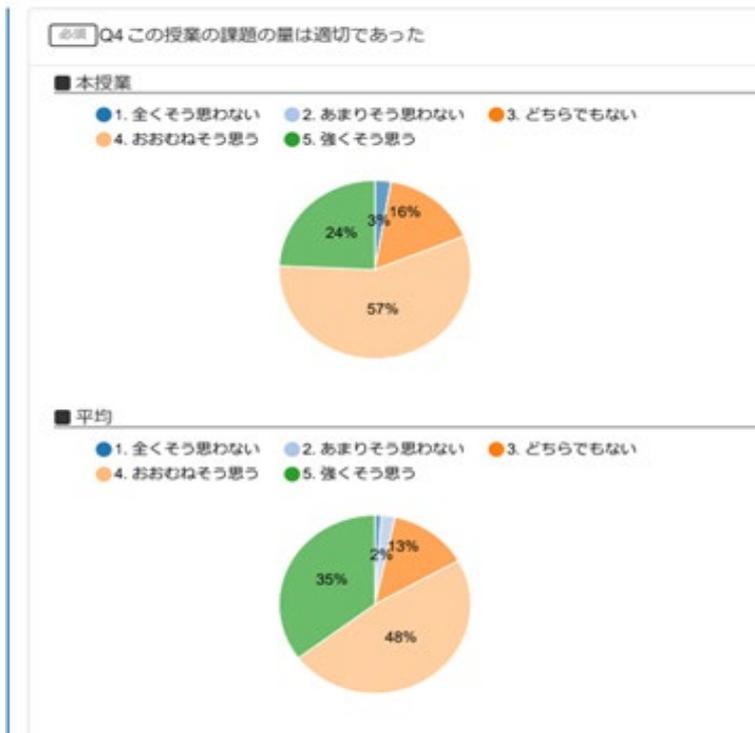
【1】 中長期経営計画に関する事業

(1) 質保証システムの確立

①新学事システム（Active Academy Advance）及び新ポータルサイト（Seian Active Portal）、学修成果可視化システム（Assessmentor）の活用

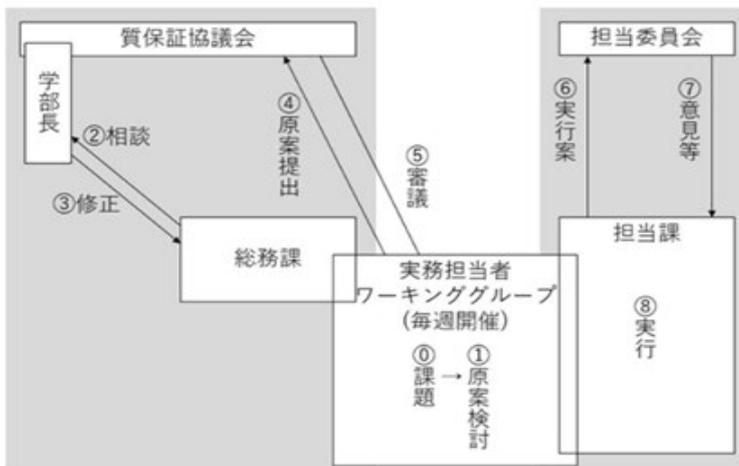
各課の課長補佐で構成された質保証に関するワーキンググループを発足し、「学修成果アンケート調査」及び「授業評価アンケート」の結果に基づき、シラバスの到達目標へのDP（ディプロマ・ポリシー）項目を設定するなど、システムの活用や改善を行いました。

◎図1 授業評価アンケート例



◎図2 質保証協議会への業務フロー図

●ワーキンググループを起点とした質保証関連事項の実行フローチャート
(担当課が審議プロセスに近く、実務レベルまで話が進むのが早い)



②今後の入学者選抜試験制度の検討

AP（アドミッション・ポリシー）の検証を行い、体験授業及びその評価・基準及び学校推薦型選抜の見直しを行いました。

③新学期ガイダンスの見直し

令和 5 年度より履修登録期間を全学年で統一するなど新学期ガイダンスの実施方法を見直した上で、令和 6 年度より新学期ガイダンスの履修指導時に前期・後期とも受講指定科目の登録を可能にし、年間を通した履修指導ができるように学事システムを変更しました。

④初年次教育の見直し

初年次教育検討委員会において、初年次科目である「大学入門」と「キャリアデザイン概論」を見直し、令和 6 年度から「大学入門」は内容を変更した上で新入生が極力早い段階で大学生生活に慣れるように開講時期を前期に変更、「キャリアデザイン概論」は開講日を統一し、外部講師を招聘しやすくするなどの改善を図りました。

⑤学修管理ツールの標準化

出欠管理などは、新ポータルサイト（Seian Active Portal）をメインツールに、その活用方法を機関会議等で講習しました。また、「Google Classroom」などはサブツールとしての活用を推奨しました。

- ※1 「Active Academy Advance」とは、学事に関する情報管理を簡便に可視化することで、教職員の負担を軽減し、きめ細かな学生支援を実現させる大学経営・事務総合パッケージシステム。
- ※2 「Seian Active Portal」とは、学生がオンライン上で履修登録や時間割の管理など学生生活において必要な手続きが行え、休講などの各種大学情報を確認できるポータルサイト。
- ※3 「Assessor」とは、学生の理解度をはじめ、3 つのポリシーの整合性やカリキュラムのアセスメントなど教学マネジメントに必要な学生の学修成果を可視化するシステム。
- ※4 「Google Classroom」とは、各授業の課題の作成・配布・採点・フィードバックをはじめ、成績管理や本人への連絡などに活用できる Google 社が提供する学習管理アプリ。

（2）教育・研究の高度化、先鋭化と拡張

①領域ショールームの整備

各領域の特色や 4 年間の学びの流れ、学生の課題作品などを展示したショールームを整備しました。学生が所属する領域や他の領域の学びを理解できるだけでなく、オープンキャンパスや大学見学会で来学された高校生など学外の方にも本学の学びを理解いただける施設です。

美術領域ショールーム



②学生選書事業

令和5年11月、3年ぶりに書店実店舗（丸善京都本店）において「学生選書2023」を実施しました。図書館職員2名が同行し、8名の学生が参加（昨年度オンライン実施7名、86冊）して、過去最多となる119冊の図書を選書した。また、図書館には学生による図書紹介POPとともにコーナーを特設しました。

③コンピュータールームの用途変更

ノートパソコン無償貸与制度が完成年度を迎える令和6年度以降に向け、現共通コンピュータ室1・2・3の3部屋を、専門性が高くハイスペックなコンピュータを完備したCGアニメーション用コンピュータ室、映像編集用コンピュータ室、CAD用コンピュータ室に再整備しました。

④教育研究用機器備品の整備

ファブリケーションcommonsに光造形3Dプリンターを整備しました。既存の機種より大型で精度の高い造形が可能となりました。また同施設に対する学生ニーズの高まりに対応するため、サポート及び部品供給が終了した既存の機種も継続して使用しています。

※「ファブリケーションcommons」とは、3Dプリンターやレーザー加工機、デジタル刺繍マシンなど、デジタル工作機械を完備した施設。

⑤学生の研究活動支援の推進

本学の研究活動の活性化を目的に、学生の研究活動を支援する「SEIAN ドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」は、当年度20件（昨年度13件）の応募があり、内6件を採択しました。その研究成果については、令和6年4月にスパイラルギャラリーやバスストップギャラリーで発表予定です。また、学生の地域連携活動を支援する「seian チャレンジ」は7件（昨年度4件）の活動を採択し、学生の主体的な地域貢献活動を支援しました。

⑥研究・連携事業の支援体制の強化

研究・連携支援課の活動を強化するため、新たに技能職員2人を採用しました。

(3) 「就職に強い芸術大学」の評価確立

① キャリアサポートセンターの強化

令和5年度までは共通教育センター長がキャリアデザイン科目の管理を行ってきましたが、令和6年度より、キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターの支援が一貫性のあるものとして機能するよう、キャリアデザイン科目教員とキャリアサポートセンターの職員が協働でセンターの運営を実施していきます。そのため、令和6年度より専任のキャリアデザイン科目担当教員を採用しました。キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターでの支援を一本化することにより、時代のニーズに合わせた支援の実現が可能となり、早期化している就職活動に対応することができると思います。

② キャリアデザイン科目の再構築

企業の採用選考が早期化していることに対応するため、キャリアデザイン科目担当者と授業内容を検討した結果、受講推奨科目と選択科目に分類した上で、講義系科目を2年前期までに、演習系科目を2年後期以降に配置することとなりました。知識や技術を習得するだけでなく、それをどう活用するのか考え、実践する力を育みます。また、1年生から参加できる就活サポート講座や会社説明会などを実施し、早期から就職意識を醸成する取り組みを積極的に実施しました。

③ キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターとの連携強化

1年生では、本学に入学してきた目的や目標を明確にし、4年間をどのように過ごすのか、他者とのディスカッションやワークを通して自分自身で考えることを目指しました。

2年前期では、クリエイティブな仕事に就く際必要となる、ポートフォリオについて、知識や方法に関する講義を行いました。後期には、企業の課題を解決するためのグループワークを行い、現状の企業課題を知り、解決するための方法を他者と協力しながら考える演習を行いました。

3年前期では、夏に行われるインターンシップに参加するための企業選びや業界の研究を行いました。後期には目前に迫る就職活動に向けて、応募書類の作成方法や、オンラインでの面接対策、対面での面接の対策等を、実践を交えて実施しました。

④ ショート面談の実施

令和5年10月10日から10月27日の間、206名の2年生を対象にショート面談を実施しました。118名(57%)の学生が参加しました。次年度は参加者が7割となるよう告知等を工夫する予定です。

(4) グローバル化、多様化の推進と対応

① 学生会組織の在り方

教学課において、学生会との打ち合わせを行い、現状の組織体制と今後の組織の在り方についてヒアリングを行いました。新型コロナウイルス感染症による自粛期間が明けたことにより、実施していなかった学内イベントが盛んに行われるようになり、危惧していたイベントへの参加意欲や企画意欲の低下はありませんでした。

② 学内奨学金の在り方

日本学生支援機構給付奨学金制度で入学した学生の家計収入により後期から給付額が変更もしくは休止となる学生の修学継続に向けた支援策として、学内奨学金を貸与できるように学内奨学金規程を改正しました。

③芸術分野の裾野を拓げる取り組み

中学校の生徒を対象に、ワークショップや大学見学などを内容とする中学生向けオープンキャンパスを令和5年8月26日（土）に実施しました。今年度は近隣や卒業生が教鞭をとる中学校だけではなく、ホームページを作成するなど、一般公募も行いました。オープンキャンパスには中学生やその保護者、中学校の教員を合わせ約100名が参加され、芸術を学ぶことの楽しさや芸術大学での学びとその役割について、見聞を広めていただきました。また、ワークショップには本学の教職課程を受講している学生がスタッフとして参加したことで、今後の同課程の学びに繋がる有用な経験にもなりました。

また、今年度より大津市教育委員会と大津市のクラブ活動地域移行プログラムも実施。大津市の美術部の生徒と年3回のワークショップを学内で行い、のべ60名以上の生徒が参加しました。これにも本学の教職課程を受講している学生がリーダーとして参加しています。

◎図3 クラブ活動地域移行プロジェクト（大津市教育委員会広報誌より）



◎図4 中学生オープンキャンパス告知（本学ウェブサイトより）



④外国人留学生の支援強化

外国人留学生の日本語能力向上を図るため、日本語課外講座を検討しました。令和6年度後期から実施予定です。

⑤離学者対策

新ポータルサイト（Seian Active Portal）を活用し、学生の出欠状況をリアルタイムで把握し、連続して授業を欠席している学生に対する連絡や支援を年間通して行いました。

⑥障がいのある学生支援

令和6年3月1日（金）に障がい学生支援に関する研修会を実施しました。対象者は本務の教職員を対象とし、「学修支援における合理的配慮とは」をテーマにグループディスカッションを行いました。参加者は67名で参加率は73.6%でした。

また、施設のバリアフリー計画についてはこれまでの計画を見直し、今後中期的な施設整備計画を策定する中で盛り込むこととしました。

（5）卒業生との連携強化

①大学同窓会との連携

大学同窓会との共催で、令和6年11月11日にホームカミングデーを開催しました。アフターコロナということで、制限を解除した形で実施し、これまでにない参加者数（参加者252名）を記録しました。また、当年度より同窓会ウェブサイトを開設し、大学や同窓会の情報発信を強化しました。なお、大学同窓会より卒業制作展の各賞への協賛や同窓会奨学基金への寄付などの支援を受けています。

②外国人留学生の卒業後のコミュニティ形成

今後も外国人留学生が増加する見込みであり、オンラインコミュニティの構築に向け、DXを推進していく予定です。

◎図5 成安造形大学同窓会 KAITSUBURI」ウェブサイト



（6）地域連携の深化

①地元企業向け大学説明会の実施

連携協定を締結している滋賀県中小企業団体中央会に加盟する企業を対象に、デザイン経営をテーマに、在学生の学びや地域・企業との連携事業を紹介する大学説明会を令和5年10月20日（金）に開催しました。今年度は参加企業の方と発表者（学生）と個別面談の機会をコミュニティスペース結で設けました。参加された方に非常に好評で、次年度以降も継続して開催することになりました。

②コミュニティスペース結のリニューアル

コミュニティスペース結は、前身であるカフェテリア結のコロナ禍による休業を経て、大学や地域を結ぶ新たなコミュニティスペースとして令和5年10月17日にリニューアルオープン

ンしました。単なるカフェテリアではなく、学生と教職員が積極的に活用し地域との交流拠点となるように、有志の学生チーム（ゆいらぼ）と連携してコミュニティスペースとしての在り方の検討と実証実験を行います。

③地域拠点としてのキャンパスが美術館の運営

リニューアルしたコミュニティスペース結と開館日・時間を合わせることで、学外からの来場者が立ち寄りやすい美術館を目指しました。回遊式美術館という特徴を活かし、キャンパス内に点在する複数のギャラリースペースで1年を通して様々な展覧会を開催しました。

主な展覧会として、成安造形大学開学 30 周年記念展覧会 2023 秋の芸術月間 SEIAN ARTS ATTENTION 16「Error of Reality」（令和 5 年 10 月 13 日～11 月 11 日）、「SELECTION 卒業制作展 2023」（令和 5 年 4 月 3 日～29 日）、「観察者のまなざし」（令和 5 年 6 月 2 日～7 月 1 日）、成安造形大学収蔵作品展「昏き器 琵琶湖 近江の情景展」（令和 5 年 9 月 1 日～24 日）を開催しました。「昏き器 琵琶湖 近江の情景展」では、本学の収蔵品から大野俊明先生と近江八景の浮世絵を展示することで、滋賀の風景の移り変わりを鑑賞いただきました。

成安造形大学収蔵作品展「昏き器 琵琶湖 近江の情景展」展示風景



（7）財務体質強化と体制整備

①インターネット出願システムの導入

入試執行の効率化とミス防止、志願者の利便性向上を図るため、インターネット出願システムを令和 7 年度入学者選抜試験の出願より導入することになりました。

②大学のプロモーション強化

本学ウェブサイトの閲覧状況について外部業者に解析を委託し現状把握を、また領域運営サイトの領域での運用状況について調査を行ないました。その結果を元に、今年度と 2025 年度で現状のサイトの導線の見直しや、領域ページのマイナーチェンジ、領域運営サイトの再構築などを実行する計画を立案しました。

③デジタルコンテンツを利用した募集活動

ウェブサイト・ネット広告・ウェブ進学媒体・SNS などのネットワークを利用した広報

と、大学案内などの紙媒体のあり方について検討を行い、2024年度から2027年度までの広報計画を立案するとともに、今後を踏まえ、ウェブサイトの進学媒体の効果を測定するため、新たにウェブ進学媒体やウェブ広告による接触者増のためのツールを導入しました。

④団体バスの活用

オープンキャンパスにおいて、団体バスによる動員の強化を図り、参加者は726名（昨年度571名）と増加しました。同じく団体バスにより、高大連携プログラムや卒展見学などの参加者も好調でした。大学の認知度や立地面から、個人でのイベント参加者を増やすことは容易ではないことから、団体バスを手配することで高校や画塾単位で参加してもらえることは募集面で大変有効でした。

⑤人事システムの導入

人事管理システム及び年末調整システムの導入し、雇用契約や入社手続き、年末調整や給与明細をデジタル化しました。

⑥改正電子帳簿保存法に対応したシステム導入

令和5年11月から電子帳簿保存法に対応したクラウドサービス「Invox 電子帳簿保存」を導入し、令和6年1月より本格始動しました。

◎図6 「電子帳簿保存」ホーム画面

文書の種類	データ化中	確定待ち/うち担当分	承認待ち/うち担当分	全0件
見積書 (受領)	0件	21件 / 0件	0件 / 0件	
注文書 (受領)	0件	9件 / 0件	0件 / 0件	
納品書 (受領)	0件	12件 / 0件	1件 / 0件	
領収書 (受領)	0件	36件 / 0件	4件 / 0件	
請求書 (受領)	0件	26件 / 0件	0件 / 0件	
請求書 (発行)	0件	1件 / 0件	0件 / 0件	
注文請求書 (受領)	0件	0件 / 0件	0件 / 0件	
契約書 (受領)	0件	0件 / 0件	0件 / 0件	
領収書 (発行)	0件	0件 / 0件	0件 / 0件	

⑦中期的な人事計画の策定

教育職員の定年退職が暫く続くことから、安定的な運営体制を構築するため、中期的な人事採用計画を立案しました。

⑧中長期経営計画の推進に向けて

募集力強化・収容力拡大にむけての学科編成の最適化や外国人留学生獲得強化策、DXの推進など、中長期経営計画の推進に向けた検討を行い、事業の概要を取りまとめました。

【2】新型コロナウイルス感染症対策に関する事業

(1) 共有部分の整備

令和5年5月8日以降、ウイルスの飛沫防止用アクリルパネル等の撤去をはじめ、ウィズコロナに適した設備等の整備計画を実施しました。

(2) 職場内の人流抑制

人事労務システム（年末調整システムを含む）「スマート HR」を導入し、職場内の人流抑制に努めました。

(3) アフターコロナ・ウィズコロナ

事務局、食堂の透明のアクリルボードは一部設置コーナーを設けつつ、令和5年5月8日以降に撤去するとともに、ウィズコロナに適した設備等の整備を行いました。また、学生の課外活動については、原則コロナ禍以前の活動ができるように制限を解除しました。

【3】大学開学 30 周年記念事業

本学は令和 5（2023）年度に開学 30 周年を迎えることから、これまでの 30 年間の教育研究の軌跡を振り返り、輩出した卒業生との繋がりを深めた上で、改めて本学の価値を再認識するとともに、新たな高等教育機関としての価値を創造することで、学内外に向けて、本学の存在意義をアピールし、ブランド力を向上させる絶好の機会と捉えています。

（1）成安ホームカミングデー 2023 30th anniversary

「成安 ホームカミングデー 2023 30th anniversary」は多様なイベントで卒業生や関係者を魅了し、大成功に終わりました。参加者数は予想を上回り、各イベントは賑やかで活気にあふれていました。特にファッションショーやヒーローショーは大きな反響を呼びました。成安造形大学は 30 年の歴史を振り返り、ホームカミングデーでその歴史と未来を共に祝いました。今後も卒業生との結びつきを深め、これからの成安造形大学を発展させていく誓いができたのではないのでしょうか。最後に、このイベントに参加していただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心からの感謝を申し上げます。

1) イベント開催日時：令和 5 年 11 月 11 日（土） 天気：くもりで肌寒い一日

2) 主なイベント

- ①ホームカミングデーの開会宣言と大学 30 周年セレモニー
小寄学長と川満同窓会会長からの挨拶
- ②「フリータイム」
無料でご利用いただけるキッチンカーとドリンクコーナーを設置。
- ③成安アートマーケット
在学生による個性豊かなアート作品の展示・販売。
- ④懐かしのキャンパスツアー
昔からある場所や変わった場所を訪れ、参加者に改めてご案内。
- ⑤ラジオ・セイアンデンパ BB
学生 MC が OB&OG をゲストに迎え、学生時代の思い出や現在の活動について放送。
- ⑥ファッションショー」
コスチュームデザインコースの学生が制作した衣装を披露。
- ⑦成安造形特撮部ヒーローショー」
特撮部による迫力満点のヒーローショー。
- ⑧同窓会かいつぶり特別企画「おもちつき & ぜんざい」
同窓会が企画したお餅つきとぜんざいのイベント。
- ⑨キッズホーム
託児サービス
- ⑩ライブ演奏

本学教員と卒業生によるライブ。

⑪コミュニティスペース結の試食会と 30 年を振り返る展示」
30 周年を記念して「結」がリニューアル。その試食会と 30 年を振り返る展示。

⑫キャンパスが美術館 成安造形大学開学 30 周年記念展覧会
2023 秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション 16 「Error of Reality」

3) 参加者数

①参加者

卒業生: 174 名 (事前申込者 150 名、当日受付者 24 名)、同行者: 58 名
退任された教員: 5 名、聚英会・さざなみ会・教育後援会会員: 15 名
合計: 252 名

②スタッフ

教員: 31 名、職員: 37 名、学生スタッフ: 63 名、看護師 (派遣): 1 名、幼稚園教員: 2 名
合計: 134 名

③参加者・スタッフ総計: 386 名

(2) 開学 30 周年記念展覧会

キャンパスが美術館では、開学 30 周年記念展覧会として 2023 秋の芸術月間 SEIAN ARTS ATTENTION 16 「Error of Reality」を開催しました。会場では、5 組のアーティストにより現実と虚構を行き来するユニークでユーモアのある作品が展示されました。また、客員教授 UK 先生の授業で学生が制作した作品の展示や、ゲストとして滋賀県立美術館館長の保坂健二郎氏をお招きしたトークイベントを行ったことで、来場者数は過去最高の 826 名となりました。内容の話題性から、2 社に新聞掲載、3 社に web 記事の掲載をしてもらえたことで、大勢の近隣住民にもご来場いただくことができました。



大学正門サイン



ギャラリーアートサイトの展示風景



ライトギャラリー展示風景



オープニングレセプションの様子

会 期：令和5年10月13日（金）～11月11日（土）

開館時間：11:00～17:00

休 館 日：日曜、月曜、祝日

会 場：成安造形大学【キャンパスが美術館】

バスストップギャラリー、スパイラルギャラリー、ライトギャラリー
 ギャラリーアートサイト、ギャラリーウインドウ、ギャラリーキューブ
 コミュニティスペース「結」

主 催：成安造形大学、成安造形大学同窓会

開館日数：21日

来場者数：826名

出展作家：今村遼佑、垣本泰美（本学卒業生）、虚構新聞社社主 UK+本学学生
 谷平博（本学卒業生）、平瀬ミキ

デザイン：川満真也（同窓会会長）

撮 影：〈会場〉守屋 友樹、〈イベント〉オカモトアユミ（本学卒業生）

イベント：【クロストーク】

パネリスト：今村遼佑、垣本泰美、虚構新聞社社主 UK、谷平博、平瀬ミキ、
 真下武久（オンライン参加含む）

ゲ ス ト：保坂健二郎（滋賀県立美術館ディレクター、本学招聘教授）

開 催 日：2023年11月2日（木）19:00～20:30

会 場：聚英館 3F 聚英ホール

【ギャラリーツアー&レセプション】

出品作家によるギャラリーツアー、その後カフェテリア結にて歓談。

今回はコミュニティスペース「結」のオープンレセプションと合同開催。

開 催 日：2023年10月14日（土）14:00～、16:00～

【今村遼佑 ワークショップ | 空間にものごとのことの方を置いてみる】

開 催 日：2023年10月28日（土）13:00～15:30（休憩あり）

（3）附属近江学研究所 特別公開講座

附属近江学研究所では、開学30周年記念事業の一つとして、『禍 転じて 一禍とともに暮らす 自然災害と里山の再生』と題した特別公開講座を開催しました。講座では、文化誌『近江学』第14号の巻頭にある今森氏のインタビュー「禍 転じて 再生への道筋」に関連する写真を投影しながら、自然災害という「禍」が里山に何をもちたすのか、「禍」により里山がどう変化して

いくのかなど、新型コロナウイルス感染症がもたらした禍とも通じる「禍」との向き合い方や「禍」とともにある暮らしについてお話いただきました。

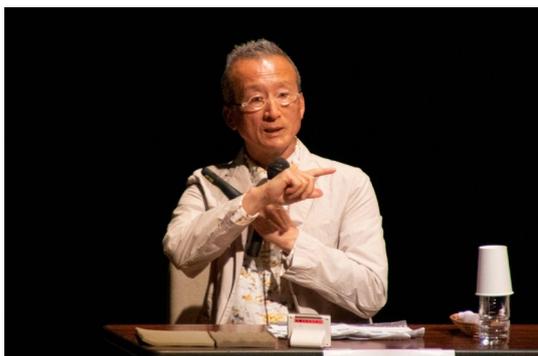
受講者からは、美しい自然の写真と今森先生の解説・エピソードで楽しく学ぶことができた。「禍」という言葉はあまり良くないイメージだが、講座を聞いて「禍」があるから私たちの暮らしがあり、美しい自然（風景）が生まれているのだと思った。「禍」は人・生物をたくましくするという考えに同感した。など多くの感想をいただきました。

「禍 転じて～禍 とともに暮らす 自然災害と里山の再生～」

日 時：令和5年5月13日（土）

場 所：和邇文化センター（大津市）

講 師：今森光彦（写真家、成安造形大学客員教授、附属近江学研究所参与）



今森光彦氏



特別公開講座会場の様子

【4】経常的な事業

(1) 教学関連

①令和5年度入学式

令和5年度入学式を以下のとおり挙行了しました。今年度の入学者は1年次が243人、2年次が4人、3年次が13人でした。

【令和5年度入学式】

日時：令和5年04月03日（月） 13時00分～

場所：成安造形大学 成安体育館

②令和5年度卒業証書・学位記授与式

令和5年度卒業証書・学位記授与式を以下のとおり挙行了しました。今年度の卒業者は前期3名、後期200名、研究生の修了者は8名でした。

【令和5年度卒業証書・学位記授与式】

〈前期〉

日時：令和5年09月15日（金） 10時00分～

場所：成安造形大学 聚英館3階聚英ホール

〈後期〉

日時：令和6年03月08日（金） 12時30分～

場所：琵琶湖ホテル 瑠璃の間

なお、令和5年度卒業生については、ほぼ全員が令和2年度に入学していますが、同年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入学式が挙行できず、その後も様々な制限により、決して充実していたとは言えない大学生活でありました。そのことを鑑み、社会への門出となる卒業証書・学位記授与式の当日において、入学式中止という喪失感を和らげ、社会での活躍を祈念・応援する演出を検討し、より一層心に残る卒業式となることを願い以下の通り特別企画を実施しました。

【令和5年度卒業証書・学位記授与式特別企画】

日時：令和6年3月8日（金） 17:00～20:00

実施内容：琵琶湖ナイトクルーズ（琵琶湖汽船の船舶 ミシガンを貸し切り）

㊦ビュッフェ形式による食事

㊦セイアンデンパによる企画（卒業生インタビューなど）

㊦在校生によるDJパフォーマンス

㊦門出を祝う打ち上げ花火

参加者数：230人

ビュッフェ形式による食事



門出を祝う打ち上げ花火



③学籍異動など

芸術学部芸術学科の中に6領域（総合領域・イラストレーション領域・美術領域・情報デザイン領域・空間デザイン領域・地域実践領域）を編成し、学事の運営を行っています。

令和5年度中の学籍異動については、復学が前期1人、後期5人、休学が前期22人、後期35人、期中の離学者は退学が11人、除籍2人の合計13人でした。なお、新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類に引き下げられ、4月1日の入学式以降3月まで学事については予定通り実施しました。授業についても段階的に受講定員を増加させ、学習成果が高いと判断した遠隔授業科目以外は原則対面で実施しました。

◎表1 学年別在籍者数（令和5年4月1日時点）

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
人数	253人	207人	253人	221人	934人

④資格課程

教職課程の資格取得者は32人でした。また、教育職員免許法施行規則の改正に基づき令和4年度入学生より情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に対応した授業科目が必要となったことから、令和4年度から新規科目「教育現場でのICT活用」を開設し、令和5年度から開講いたしました。博物館学芸員資格課程においては、主に8月から11月にかけて予定通り館務実習を行い、大津市歴史博物館や佐川美術館などの施設で実習を受け、15人が同資格を取得しました。その他、二級建築士受験資格取得者は7人でした。

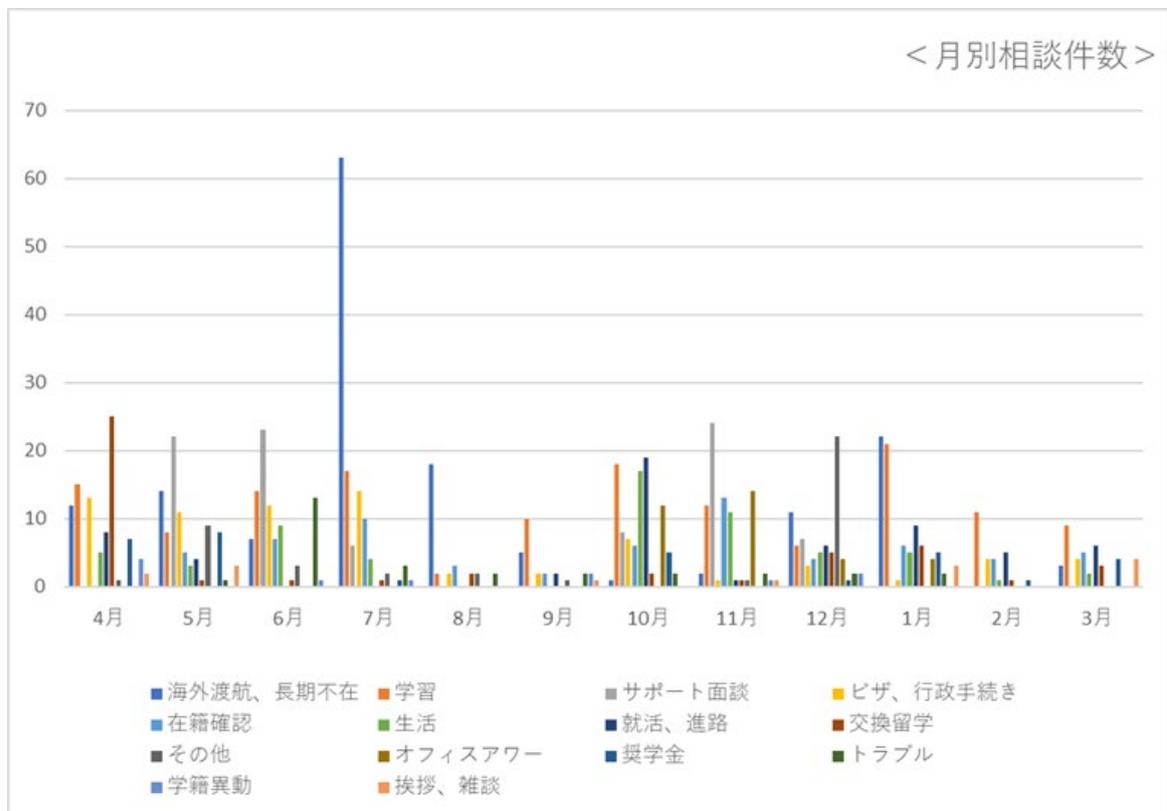
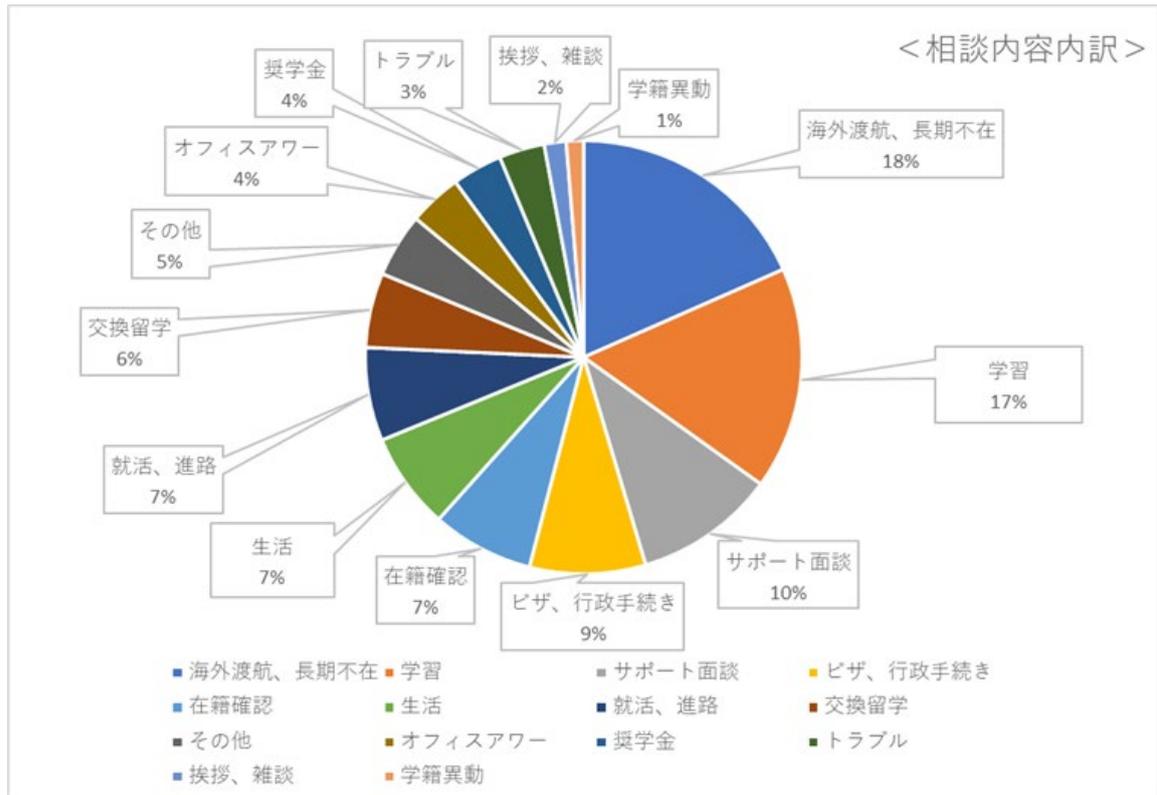
⑤卒業制作展 2024

本年度は4領域が京都市京セラ美術館で令和6年2月1日から2月4日の会期で、2領域が京都市美術館別館で令和6年2月8日から2月11日の会期で開催しました。来場者数は延べ4,524名（昨年度5,282名）でした。また、関連イベントとして、2月28日に京都文化博物館でファッションショーを2回開催し、来場者数は延べ380名でした。

⑥留学生支援センター

本学では現在163名の留学生が在籍し、その留学生の支援体制として令和元年より留学生支援センターを設置しその支援にあたっています。同センターでは在留資格の変更がないかなどの在籍管理や窓口での面談対応、派遣留学生に関する提携校との調整やサポート、留学生対象の奨学金手続き、留学生や国際交流に係る情報発信、提携校からの交換留学生のサポート、日本語などの課外講座の企画実施など多岐にわたって外国人留学生に対する支援業務を行っています。また昨年度の相談内容から日本語における相談が多くあったことをうけ、今年度後期からは日本語授業担当教員による面談時間（オフィスアワー）を設置し、のべ29人の外国人留学生に対して授業時間以外の日本語指導や筆記試験対策、大学院受験における面接指導等を行いました。昨年度同様に日本での就職や進学を望んでいる外国人留学生が増えており、同センターとキャリアサポートセンターが連携し、その支援にあたっています。なお、今年度の外国人留学生の就職進路状況は日本国内での就職希望者9名に対し就職者9名、進学希望者13名に対し進学決定者11名となっております。

◎図 7 留学生支援センター利用者状況



⑥学生表彰

制作・研究において社会的に高い評価を受けたと認められる者として 4 年生 4 人が優秀賞

として、奨励賞として3年生1人が表彰されました。優秀賞の4年生4人の表彰は3月8日に挙行了した卒業証書・学位記授与式終了後に行いました。

⑦大学祭

学生会及び大学祭実行委員会が主体で本学の大学祭「響心祭」が9月23日（土・祝）と24日（日）の2日間で開催いたしました。総来場者数1,746名(1日目766名、2日目980名)と学生関係者や教職員のみならず、地域の住民の方にも多数お越しいただき、昨年度より200名をうわまわる来場者で、学生による作品の展示や手作り品の販売、キッチンカーなど盛況であったと報告を受けています。また安全面においても特に警備会社からはトラブル等の報告はありませんでした。

◎表2 主な学事日程

月	学事など
令和4年 4月	入学式（3日）、新入生ガイダンス（4日～13日）、前期授業開始（17日）
5月	教職課程教育実習（～10月頃）
7月	学芸員課程博物館実習（～1月頃）
8月	前期授業終了（7日）、集中講義（22日～25日、28日～31日、9月4日～9月8日）
9月	前期保留該当者試験（1日）、前期卒業証書・学位記授与式（15日） 大学祭（23・24日）、後期授業開始（28日）
令和5年 1月	後期授業終了（27日）
2月	卒業制作展（1日～4日、8～11日）、後期集中講義（13日～15日、19日～22日、26日～29日、3月4日～7日）、教員免許状一括申請 後期保留該当者試験（19日）
3月	卒業証書・学位記授与式（8日）、在学生ガイダンス（18日～22日）

(2) クリエイティブサポート・附属図書館関連

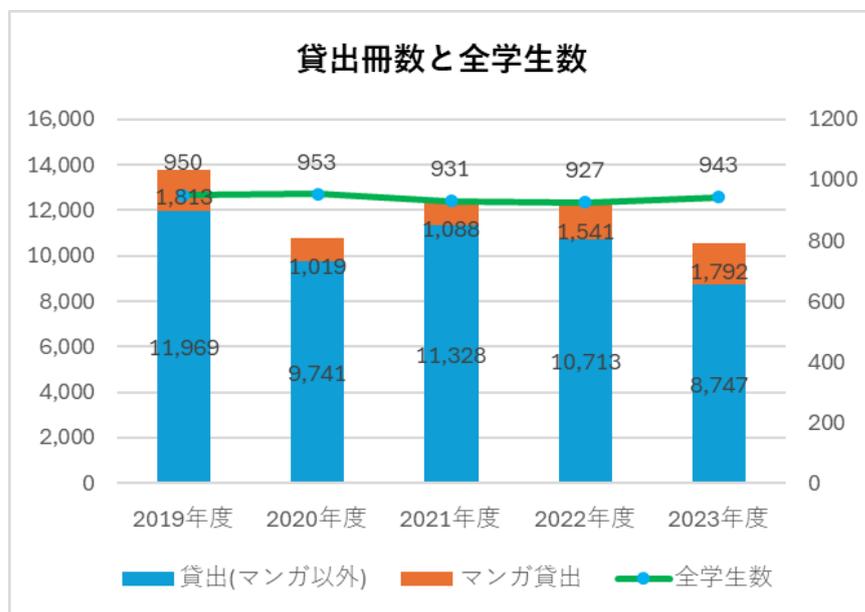
クリエイティブサポートは学生・教職員の制作や研究を、機材・施設・技術面から支援するシステムです。コンピューターをはじめ、写真・映像・印刷などメディア全般を取り扱う「情報メディアセンター」、同センターの関連施設であり3Dプリンターやレーザー加工機などを使ったデジタル工作が可能な「ファブリケーションcommons (fabco)」、木工・樹脂加工・塗装ができる「造形ラボ」、金属加工ができる「鉄工ラボ」、木版画・銅版画・リトグラフ・シルクスクリーンなどができる「版画ラボ」、木彫や塑像などの作業ができる「D棟共同工房」を設置し、専門スタッフを配置して授業のサポートや個人制作へのアドバイス、技術指導及びメンテナンスを行っています。また、各施設を体験できる取り組みとして、夏季と春季にワークショップを開催しています。

また、ノートパソコン無償貸与制度が完成年度を迎える令和6年度以降について、現共通コンピュータ室1・2・3の3部屋は、専門性が高くハイスペックなコンピュータを整備したコンピュータルームに変更され、CGアニメーション用コンピュータ室、映像編集用コンピュータ室、CAD用コンピュータ室となりました。その他のコンピュータ室については、各領域の実習室や演習室となり、利便性の高い活用の仕方が可能になりました。(Ⅱ-1-【1】-(2)-②に前述)

附属図書館においては、一般図書に加え、絵画、彫刻、写真、イラストレーション、マンガ、メディア関係の図書や雑誌、視聴覚資料などを所蔵しています。当年度の年間受入冊数は図書

1,621冊、逐次刊行物172種でした。なお、前年度から実施している学生選書では、119冊を購入しました。現在の蔵書数は81,916冊、視聴覚資料は3,595点となっています。また、当年度の入館者は22,283人、貸出冊数は10,539冊でした。

◎表3 図書貸出冊数



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
貸出(マンガ以外)	11,969	9,741	11,328	10,713	8,747
マンガ貸出	1,813	1,019	1,088	1,541	1,792
年度計	13,782	10,760	12,416	12,254	10,539
全学生数	950	953	931	927	943

◎表4 ラボ施設等の年間利用者数

	fabco	造形ラボ	鉄工ラボ	版画ラボ
利用者数	1,821人	1,688人	1,137人	817人

◎表5 ワークショップの開催状況

	夏季(8月29日~9月7日)		春季(3月11日~15日)	
fabco	分解ワークショップ	2人	刷って・切って・くっつけるアクキーづくり	4人
	『レーザー加工機を使ってみよう』	5人		
造形ラボ	石膏を使った型取りと樹脂や石膏による成形作業	4人	針金で焼印を作ろう	5人
鉄工ラボ	鉄で足し算引き算オブジェ	1人	錫(スズ)を使って鋳造をしよう	7人
版画ラボ	スクリーンプリントワークショップ	5人	サイアナタイプ実験	3人
	凸凹版プリントワークショップ	5人		

(3) キャリアサポート関連

①令和5年度卒業生の進路状況

卒業生 203 人の内、就職希望者は 141 人、その内就職者は 129 人でした。対就職希望者就職率は前年度より 3.2 ポイントの増加となりました。

主な就職先の業種は、ゲームやウェブサイト制作などの情報通信業で 28%を占め、続いてサービス業が 19%、製造業が 18%で続いています。主な職種は、デザイナーなどの本学での学びを生かした専門職であり、全体の 42%を占めています。また、教員免許状を取得した学生の内、9 人が教育職に就職しました。なお、進学者は大学院が 2 人、本学研究生が 11 人でした。

◎表 6 令和5年度卒業生の進路状況

令和5年5月1日現在

卒業生数	就職						進学	クリエイター他	臨時労働	その他
	希望者数	就職者数	対就職希望者就職率		対卒業生就職率					
			令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度				
203 人	141 人	129 人	88.30%	91.5%	61.2%	63.9%	15 人	19 人	8 人	32 人

注1. 卒業生数には、令和5年9月卒業生を含む。

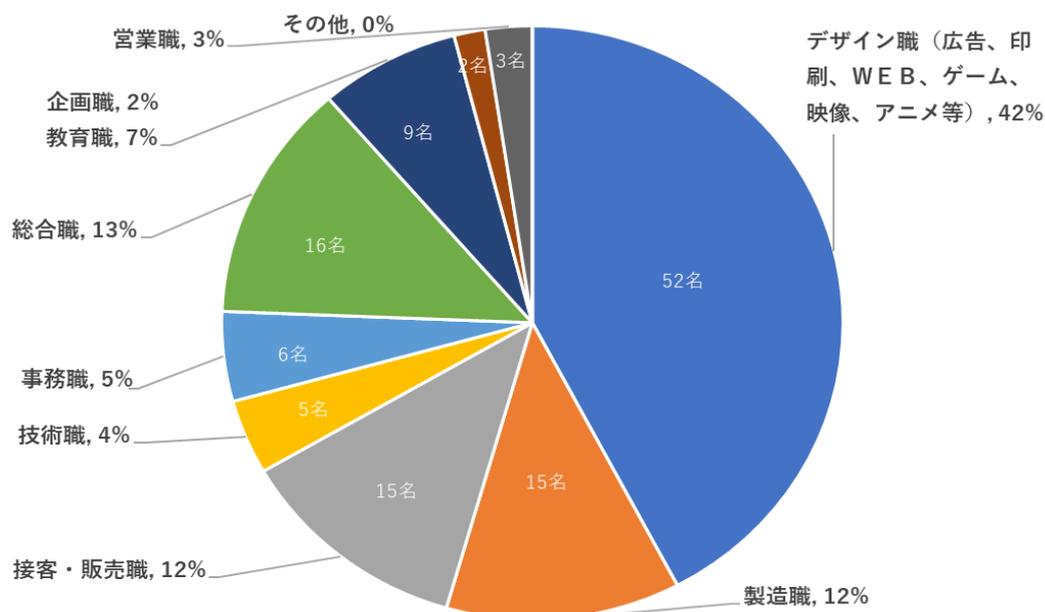
注2. クリエイターは、就職活動は行わず、アルバイト等しながら自身の制作活動続ける者また、留学生の帰国する者。

注3. 臨時労働は一時的な仕事に就いた者（短時間勤務の者など）。

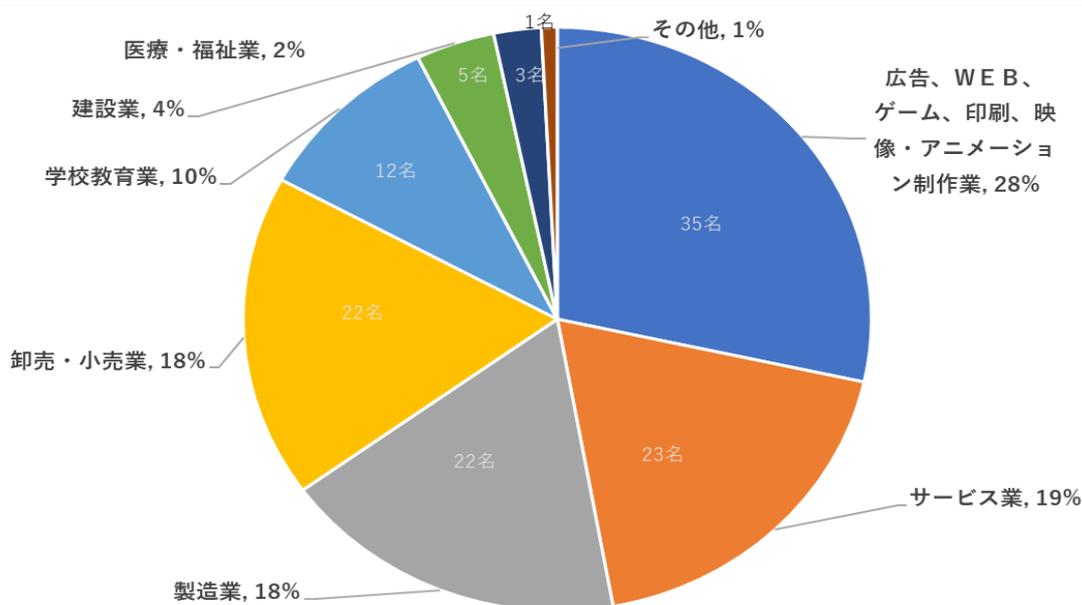
注4. その他は、家事手伝い、就職・進学準備など。

◎図 8 就職先の産業及び職種割合

<産業別>



<職種別>



②キャリアデザイン科目

キャリアデザインに必要な「自己分析・自己発見」や「社会を知る」ということを段階的に学ぶことで、学生が個々の目標に合わせたキャリアデザインを構築するための科目であり、当年度は計9科目を開講しました。

◎表7 キャリアデザイン科目の受講状況

科目人	配当学年	概要	受講者数	履修率
キャリアデザイン概論1	1年前期	大学生活における目標を明確にし、進路に向けての意識や姿勢をつくる	245人	96.8%
キャリアデザイン概論2	1年後期	大学生活の1年間を振り返り、2年次以降における目標を明確にする	244人	96.4%
就業力育成論1	2年前期	進路を選択する上で重要になる「自己表現」と「ポートフォリオ」について考える	200人	96.6%
就業力育成論2	2年前期	進路選択、就職活動の全体概要を理解し、先輩や卒業生の体験を聴きながら自分の将来を考える	200人	96.6%
就業力育成演習B	2年後期	グループワークやディスカッションの基礎を学び、起業からの課題を解決する方法を学ぶ	131人	63.3%
就業力育成論3	3年前期	就業に向けて能動的に自らの学びを発信する	84人	33.2%
就業力育成演習C	3年前期	間近に迫った就職活動のために実践的な知識を共同作業を通して身に付ける	135人	53.4%
就業力育成演習D	3年後期	間近に迫った就職活動のために実践的なスキルと知識を身に付ける	113人	44.7%
インターンシップA	2年前期	職場体験から学ぶ（事前学習、実習、事後学習）	49人	—

③就活サポート講座

キャリアデザイン科目以外にも、早期の段階でキャリア意識を醸成するための就活サポート講座を開催しています。当年度は就活における悩みを解決するワークショップやポートフォリオ講座、SPI 受験会、4年生内定者との交流会、プレゼンテーションやグループディスカッション講座など 30 講座を開講し、延べ 642 人が参加しました。

◎表 8 主な就活サポート講座

タイトル・テーマなど	実施日	内容など	参加者数
就活お悩み解決 WS	4/21(金)	就活自体に、不安を感じている学生を対象とした講座。	1
就活お悩み解決 WS	4/27(木)	同上	7
就活お悩み解決 WS②～面接編～	5/26(金)	面接に対して苦手意識のある学生を対象とした、対策講座。	3
就活お悩み解決 WS②～面接編～	5/29(月)	同上	3
IS 選考準備講座	6/16(金)	3年時から早期選考が始まる企業が増えているため、選考に参加するための準備。	4
言語・非言語 WEB テスト受験会	6/16(金)		5
夏活／ベネッセ i キャリア就活セミナー	6/23(金)	就活初期に動けていない学生を対象としたセミナー	10
夏活／ベネッセ i キャリアマッチング会	6/23(金)	ベネッセ i キャリアサービス登録と、所有求人の紹介	11
夏活／ハローワークマッチング会	6/23(金)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有求人の紹介	12
ハローワークマッチング会	7/14(金)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有求人の紹介	4
AI 時代のアートの価値と創造性	7/21(金)	「クリエイティブ・マネジメント (アート×デザイン思考)」講師 柴田氏による AI とアートの重要性をテーマとした特別講座	22
後期 2 年生キャリアガイダンス	9/12(火)	後期 2 年生キャリアガイダンス	121
後期 3 年生キャリアガイダンス	9/12(火)	後期 3 年生キャリアガイダンス	95
秋活／マイナビ就活セミナー	10/6(金)	まだ就活が出来ていない学生を対象としたセミナー	11
秋活／マイナビマッチング会	10/6(金)	マイナビサービス登録と、所有求人の紹介	11
秋活／ハローワークマッチング会	10/6(金)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有求人の紹介	6
ハローワークマッチング会	10/13(金)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有求人の紹介	5
ハローワークマッチング会	10/20(金)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有求人の紹介	6

ここからはじめる！ポートフォリオ基礎講座	9/4 (月) 5 (火) 8 (金)	PF 制作実践講座。3 日間を通し、PF 制作ベ ース完成を目標に行った講座。	10
Vivivit/ポートフォリオバイブル	10/24(火)	Vivivit の方をお招きし、クリエイティブ職を 希望する学生へ向けた PF のポイント等をレ クチャー	58
コワくない！ユニークな就活のすすめ	10/26(木)	4 年生 SA 主催の就活体験談を交えた、下級生 との交流会	17
ハローワークマッチング会	11/7(火)	新卒応援ハローワークサービス登録と、所有 求人紹介	2
リクナビ 筆記試験・適性検査準備講座	11/21(火)	リクナビで実施している模擬テストを実施	22
リクナビ 筆記試験・適性検査準備講座	11/21(火)	同上	27
求人の見方講座	12/12(火)	基本的な、求人票の読み解き方をレクチャー	10
求人の見方講座	12/12(火)	同上	20
インターン・就職活動用 証明写真学内撮影 会	1/26(金)	プロのカメラマンによる、学内証明写真撮影 会。就活だけでなく、IS 選考でも使用がある ため、3・4 年生を対象とした。	15
就活解禁前ガイダンス	2/5(月)	3 月の就活解禁に向けた、就活対策ガイダン ス。(各種ナビサイト紹介や、選考フローの大 まかな流れを紹介等)	83
24 年 留学生向け就活ガイダンス	2/16(金)	日本での就職を考えている留学生を対象とし た就活対策ガイダンス。(各種ナビサイト紹介 や、選考フローの大まかな流れを紹介等) ゲ ストスピーカーに 24 卒留学生内定者を招き就 活体験も話してもらった。	6
24 就活相談フェス「おしえて!センパイ！」	3/4(月)	4 年生 SA 主催の就活体験談を交えた、下級生 との交流会。(内定者 8 名が参加)	35

④会社説明会

学生の就職希望が多い印刷会社やゲーム会社、デザイン事務所などクリエイティブな業種の企業の人事担当者を招いた学内会社説明会を実施しました。当年度は 24 社の参加があり、延べ 236 人の学生が参加しました。

⑤インターンシップ

本学主催のインターンシップとして、当年度は学生の要望の高いウェブデザインや印刷、映像制作をはじめ、家具や酒造メーカー、社福法人など幅広い業種 24 社・団体に受け入れいただき、49 人(2 年生 10 人・3 年生 39 人)の学生を派遣しました。また、大学コンソーシアム京都主催の単位認定型には 2 人を派遣しました。併せて、非単位認定型である滋賀県のジョブパーク主催のインターンシップには 1 年生 2 人を含む 5 人を派遣しました。なお、当年度も本学主催のインターンシップの受け入れ企業の開拓を行い、新たに 2 社が追加となりました。

⑥キャリアサポートの個別支援

キャリアサポートセンターと各領域との情報共有の強化を図るため、領域ごとにキャリアサ

ポート担当教員を配置し、年間4回のミーティングを実施した。また、ゼミ担当教員とは年2回のミーティングを実施した上で、学生個々の状況を把握するとともに、適宜学生との個別相談を実施し、個別指導を徹底しています。併せて、9月には2年生、3年生全員と4年生未内定者を対象にショート面談を実施し、進路希望の確認や現在の進路活動の状況を確認の上、今後の就職活動の在り方を指導しています。

⑦キャリアサポートセンターと担当教員とのミーティング

【第1回】令和5年07月27日（木）※メールにて情報共有

【第2回】令和5年09月01日（火）※オンライン開催

【第3回】令和5年12月01日（金）※オンライン開催

【第4回】令和6年03月11日（月）※オンライン開催

⑧キャリアサポートセンターとゼミ担当教員とのミーティング

【前期】令和5年05月22日（月）～06月02日（金）

【後期】令和5年10月30日（月）～11月10日（金）

◎表9 月別個別相談状況

(単位:人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
79	137	98	81	37	26	56	61	50	43	41	65

(4) 入学者選抜試験

当年度の入試結果として、1年次入学者は12名増加の255人となりました。志願者については、総合選抜では増加しましたが学校推薦・一般・特別総合で減少し、そう志願者数は昨年度に比べ112人減少しました。そのうち特別総合選抜が88人減少しており、留学生志願者減少が顕著です。3年次編入生は前年度と比べ6人減の7人、2年次編入生は前年度と比べ1人減の3人の入学となりました。3年次志願者についても外国人志願者が半減しています。

◎表10 令和6年度入試結果【定員：1年次220人／2年次4人／3年次4人】

(単位:人)

入試年度 ※1	1年次										入学定員 充足率 (%)
	志願者					入学者					
	総合 選 抜	学校 推薦 選 抜	一 般	特 別	志願 者計 ※2	総合 選 抜	学校 推薦 選 抜	一 般	特 別	入学者計	
令和5年度	460	33	141	200	834	163	30	15	35	243	110.5
令和6年度	476	26	108	112	722	157	23	43	32	255	115.9

入試年度 ※1	2年次		3年次		入学者合計
	志願者計	入学者計	志願者計	入学者計	
令和5年度	4	4	23	13	13
令和6年度	3	3	10	7	7

※1 入試度は入学年度で表示しています。

※2 1年次の志願者数にはエントリー者数を含んでいます。

(5) 募集対策関連

オープンキャンパスや SEIAN WATCHING（大学見学会）を軸に、全国各地での業者主催の進学ガイダンスへの参加や実技セミナーを開催しました。対面でのイベントを重視しつつ、進学媒体やインターネット広告などを取り入れながら今後の間接広報体制の構築に向けて取り組みました。オープンキャンパスの参加者数は4回の開催で延べ726人（昨年度571人）、SEIAN WATCHING（大学見学会）は8日間の開催で延べ161人でした。また3月に体験授業型オープンキャンパスを新設し参加者は68人でした。

◎表 11 主な募集対策イベント

イベントなど	日程及び参加者数	
オープンキャンパス	①04月16日（83人） ③07月23日（273人）	②06月04日（192人） ④08月27日（178人）
SEIAN WATCHING （大学見学会）	①05月14日（21人） ③08月06日（34人） ⑤10月15日（7人） ⑦12月10日（12人）	②07月02日（24人） ④09月24日（26人） ⑥11月05日（16人） ⑧1月28日（21人）
卒展 WATCHING（卒業制作展見学会）	①02月04日（17人）	
成安デッサン模試	①07月22日（85人）	②03月17日（43人）
体験授業型オープンキャンパス	①03月10日（68人）	

(6) 研究・連携関連

①未来社会デザイン共創機構

未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神、校訓、および大学基本理念「芸術による社会への貢献」を今日的条件下で、より力強く実践・展開することを目的として設立しました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現を目指しています。附属近江学研究所、地域連携推進センター、およびキャンパスが美術館、そして大学全体の研究活動等を支える土台であり、学生や教員・研究者と社会を結びつけるために、研究活動等に関する相談窓口となり、社会との共創関係を構築するハブとして機能しています。特に、学生活動支援として「SEIAN ドリームプロジェクト」「seian チャレンジ」に力を入れて取り組んでいます。

令和3年度からスタートした SEIAN ドリームプロジェクトは、3年目である本年度は、学生から20件（個人16・グループ4件）の応募があり、予定より多い6件の研究テーマを採択し活動支援を行いました。

また、「セイアン近江楽座」から芸術大学である本学の特性に応じた助成内容に見直しリニューアルした「seian チャレンジ」では7件を採択し活動支援を行いました。

(a) 研究助成事業

-1) 特別研究助成事業

	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
応募数	休止	1件	3件	2件	1件
採択数	—	1件	4件（注1）	4件（注1）	1件
助成金額（注2）	—	800,000円	1,800,000円	885,000円	518,000円

（注1）：コロナ禍対応による令和2・3年度からの延長・再延長を含む

（注2）：助成金額には、延長・再延長の助成金も含む

令和5(2023)年度 採択研究課題

No	対象となる研究・制作活動	テーマ	研究者	助成金額
1	その他 特別研究助成の主旨にそった研究	展覧会「ON PAPER 紙に止まるもの」を開催することで、観賞教育の実践内容と研究成果を披露する。同時に「メディア」「版画教育」「版画とデザイン」について考察して理解を深める機会にしたい。	教授 長尾浩幸	518,000 円

-2) 科学研究費助成事業

	令和元 (2019) 年度		令和2 (2020) 年度		令和3 (2021) 年度		令和4 (2022) 年度		令和5 (2023) 年度	
	研究 代表	研究 分担								
応募のべ数	1 件	4 件	0 件	2 件	1 件	2 件	0 件	1 件	0 件	0 件
採択数 (うち継続)	0 件 (0 件)	3 件 (3 件)	0 件 (0 件)	3 件 (1 件)	0 件 (0 件)	4 件 (3 件)	0 件 (0 件)	3 件 (3 件)	0 件 (0 件)	4 件 (3 件)
研究費総額	1,040,000 円		416,000 円		1,055,000 円		1,040,000 円		195,000 円	

No	研究種目等	研究課題人	研究代表者 所属機関	研究分担者	研究期間
1	基盤研究 (C)	アートによる地域再生の実践的 検証ー障害者アートと地域ア ートの未来像を探る試み	仁愛大学	准教授 馬場晋作	令和 2～5 年度 ※1年延長
2	基盤研究 (C)	アートによる地域再生の実践的 検証ー障害者アートと地域ア ートの未来像を探る試み	仁愛大学	准教授 石川亮	令和 2～5 年度 ※1年延長
3	基盤研究 (C)	ジェンダーインクルーシブなプ ログラミング教育教材の開発と 普及	同志社女子大学	准教授 真下武久	令和 3～6 年度
4	基盤研究 (C)	モニタリング手帳の活用による 対話型糖尿病医療に向けたアク ションリサーチ	日本赤十字看護 大学	教授 由井真波	令和 5～9 年度

-3) SEIAN ドリームプロジェクト (学生特別研究助成)

	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
応募数	20 件	13 件	20 件
採択数	4 件	7 件	6 件
研究費	1,000,000 円	1,000,000 円	1,300,000 円

	研究課題	参画学生	助成金額
1	私の作家性とは何なのか	空間デザイン領域 2年	180,000円
2	服飾作品の魅力を最大限に届ける手法の探究	情報デザイン領域 4年 他 5名	120,000円
3	「版画的な思考」により 私たちの認識に新しい視点を 生み出す	美術領域 4年	250,000円
4	「てんてこのんきのすすめ・農的暮らしの学びから来る べき生活のあり方へ」	地域実践領域 4年	300,000円
5	リノベーションの施工とオリジナル土壁の研究	空間デザイン領域 3年	150,000円
6	まちか堂プロジェクト -本と葉で繋がるコミュニティ-	地域実践領域 4年	300,000円

令和 5 (2023) 年度採択研究課題

-4) seian チャレンジ (学生が主体的に取り組む地域貢献活動支援制度)

	令和 4 (2022) 年度	令和 5 (2023) 年度
応募数	5 件	11 件
採択数	3 件	7 件
支援金額上限	1 件あたり 50,000 円	1 件あたり 50,000 円

令和 5 (2023) 年度採択活動

	活動テーマ	参画学生	支援決定金額
1	方言はファッション	総合領域 3年	18,040円
2	“たどる“を”たのしむ“エコツーリズム	地域実践領域 4年 他 1名	49,680円
3	堅田浜通り*小さな写真館	総合領域 2年 他 4名	46,610円
4	しが CO2 ネットゼロの取り組みをより多くの人に 知ってもらおう	総合領域 3年 他 2名	50,000円
5	保護ぬいカフェ Chou chou(シュシュ)～ぬいぐる みと里親が巡り合うプロジェクト～	総合領域 4年	50,000円
6	「たからもの」がもたらすコミュニケーションツ ールの価値研究	総合領域 4年	50,000円
7	デザイン、プロダクトで行動変容を起こす	総合領域 4年 他 3名	50,000円

(b) 共創プロジェクト (受託研究・共同研究・受託事業)

官公庁、一般企業、各種団体から研究費(事業費)を受入れ、研究・開発を行っています。滋賀県唯一の芸術大学であるリソースをいかして、地域の課題解決や芸術文化の発展に向けた様々な企画を積極的に提案し、地域と連携して社会全体の活性化に取り組みました。

令和 5 (2023) 年度は事業数 18 件、参画学生は 110 人でした。

事業数・研究費(事業費)

	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	令和 5 (2023) 年度
事業数	29 件	11 件	20 件	20 件	18 件
研究費(事業費)	9,049,771 円	4,281,816 円	7,137,315 円	7,028,647 円	4,519,590 円

(c) プロジェクト科目・授業

本学のカリキュラムの一環として、官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題に取り入れ単位認定を行う取り組みです。多くの成果物は実際に商品化されるなど、デザインやアートがどう実社会に関わっていくかを実践的に学ぶ機会となっています。令和5年度は10科目を開講しのべ250人の学生が履修しました。

②研究活動における不正防止への取り組み

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成19年2月15日文科科学大臣決定、令和3年2月1日改正）」および「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文科科学大臣決定）」を踏まえ、「成安造形大学研究倫理規定」「成安造形大学公的研究費の運営・管理に関する規程」等を定め、研究者をはじめ本学構成員が一丸となって研究不正防止に取り組みました。研究不正防止にかかる研修等の状況は下表のとおりです。

内 容	コンプライアンス教育	コンプライアンス教育・研究倫理教育	誓約書の提出
対象者	64人	左記のうち新任者9人	64人
参加者等	64人 参加率100%	9人 参加率100%	64人 提出率100%

③附属近江学研究所

本学が主唱する近江学は近江という地域が持つ固有の風土を改めて深く検証する学問です。芸術においては、個を深く掘り下げることによって、幅広く多くの人たちが共感する普遍的な美、新しい価値観を生み出してきました。同様に近江固有の文化・風土が内包する「豊かさ」、「地域の持つ固有性」を深く掘り下げることにより、21世紀の社会に活かせる普遍的な価値観を見い出すことを理念としています。

令和5年度から令和7年度の3カ年は、近江のコミュニティを再考する「『惣・座・講』研究プロジェクト」を推進しています。

1年目となる令和5年度は、「近江の惣」を研究テーマに、「共に住む」「共に生きる」コミュニティとして、中世、近世の村の成り立ちや現代の地縁コミュニティ等の検証に取り組み、その成果として文化誌『近江学』第15号を発刊（令和6年2月）しました。

また、研究所の活動をSNSを活用して積極的に発信するとともに、写生会や現地研修の様子を紹介する動画コンテンツを制作し、幅広い世代に向けた情報発信に取り組みました。

(a)公開講座

令和5（2023）年度の公開講座は、4年ぶりに開催した特別公開講座をはじめ、すべて対面形式で実施しました。

（単位：人）

講座記号	講座タイトル	講師 ※敬称略	開催日	受講者数
ア	禍 転じて 一禍とともに暮らす 自然災害と里山の再生	今森光彦 (写真家、成安造形大学客員教授)	5/13 (土)	202
イ	近江ー受け継ぐかたち 町衆文化の心意気 大津祭の今と これから	湯立山保存会 コーディネーター：加藤賢治（本学地 域実践領域教授）	6/10 (土)	66

ウ	近江ー未来社会のかたち “MUSUBU 地図”が伝えること	金 再奎（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター専門研究員） 石川亮（本学地域実践領域准教授）	9/30 (土)	55
---	----------------------------------	---	-------------	----



公開講座風景（6/10）



講座内で行ったギャラリーツアー（9/30）

(b) 写生会

(単位：人)

講座記号	講座タイトル	講師 ※敬称略	開催	受講者数
エ	淡海の夢 2023 ー坂本・石垣と里坊の町写生会ー	永江弘之（本学教授） 待井健一（本学非常勤講師）	5/27（土）	39 (うち学生 15)
オ	淡海の夢 2023 ー近江八幡・八幡堀と城下町写生会ー	永江弘之（本学教授） 待井健一（本学非常勤講師）	10/14（土）	45 (うち学生 3)



坂本写生会



近江八幡写生会

(c) 公募展「淡海の夢風景展」

会期：11月27日(月)～12月9日(土)

会場：【キャンパスが美術館】ギャラリーアートサイト

(単位：人)

	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
出品者数	38	中止	45	49	43
来館者数	342	—	367	454	543
アーティスト トーク	中止	—	25	38	48

令和5年度は、「淡海の夢風景展」20回目の開催を記念して、本展に関わりの深いアーティストによる作品展を同時開催しました。また、12月9日(土)には、ブライアン・ウィリアムズ氏と企画者の永江弘之教授が近江の風景や風景画の魅力について語り合う、アーティスト・トークを開催しました。

○出展作家 北村美佳、西久松吉雄、服部由空、ブライアン・ウィリアムズ、待井健一、永江弘之

○会場 【キャンパスが美術館】 ギャラリーウインドウ



淡海の夢風景展会場風景



アーティスト・トーク

(d)近江学フォーラム

1) 会員数

(単位：人)

	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
個人会員	170	133	149	111	105
家族会員	23	20	19	12	8
学園会員	13	21	31	30	28
法人・団体会員	1	1	3	5	5
合計	207	175	202	158	146

-2) 会員限定/講座 テーマ「禍 転じて」

会員限定講座は、引き続きオンデマンド方式で開講しました。オンデマンド講座の受講ができない受講者を対象に大学で開催する講座映像視聴会も継続して実施しました。

(単位：人)

講座 記号	講座タイトル	講師 ※敬称略	動画配信期間 <u>視聴会</u>	受講者数	
				オン デ マン ド	視聴会
A	近江における厄除 元三大師 信仰	福井智英（長浜市長浜城歴 史博物館館長）、加藤賢治 （本学地域実践領域教授）	6/6（火） ～6/20（火） <u>6/21（水）</u>	53	21
B	大津絵と疱瘡絵—近江発、禍 への絵画的対抗手段—	横谷賢一郎（大津市歴史博 物館学芸員）	7/4（火） ～7/18（火） <u>7/19（水）</u>	61	17
C	かわそ信仰と女性	對馬佳菜子（仏像・地域文 化プロデューサー）	10/24（火） ～11/7（火） <u>11/8（水）</u>	62	20
D	疫病と向き合う —祈りから 医術へ—	岡井健司（近江日野商人ふ るさと館館長）	11/21（火） ～12/5（火） <u>12/6（水）</u>	60	20
E	長浜の天正大地震	畑中英二（京都市立芸術大 学教授）	1/9（火） ～1/23（火） <u>1/24（水）</u>	63	10

-3) 会員限定／現地研修

(単位：人)

講座種別	講座タイトル	講師	開催	受講者数
現地研修	紫式部ゆかりの古刹 石山寺を歩く	近江学研究所 研究員	10/28（土）	51



石山寺での現地研修のようす①



石山寺での現地研修のようす②

④キャンパスが美術館

「芸術大学のキャンパス＝美術館」という発想から生まれた回遊式美術館で、キャンパス内に点在する複数のギャラリースペースで1年を通して様々な展覧会を開催しています。

今年度も、教育・研究の場および地域交流の場となることをコンセプトに、在学生・教職員・卒業生に発表の機会を提供し、また、国内外で活躍するアーティストの企画展を行うこ

とで、幅広く表現活動を紹介しました。さらに滋賀ゆかりの企画展示を積極的に行い、芸術を通して地域の魅力を発信し地域交流の機会提供に努めました。

企画展の内容については運営委員会での合議制とし、通常と異なる特長的なプロセスで進めています。令和5(2023)年度は、大学開学30周年記念展覧会となる「セイアンアーツアテンション16」を中心に、企画展4本、共催展3本、申請展25本を開催しました。「アーツアテンション」では学生作品の展示や、コミュニティスペース「結」でイベントを行うなど、学生から地域住民まで幅広い年齢層に向けて活動を発信しました。

(a) SEIAN ARTS ATTENTION* (セイアンアーツアテンション)

キャンパスが美術館の主催展のうち現代において注目すべきテーマを設定した展覧会「SEIAN ARTS ATTENTION* (セイアンアーツアテンション)」を毎年開催しています。今年度も同窓会と共催しました。

	展覧会名 会期	来館者数	展覧会内容
1	SEIAN ARTS ATTENTION 16 「Error of Reality」 10月13日(金)～11月11日(土)	826人	現実と虚構の間を行き来するユニークでユーモアのある作品を展示 ・出展作家として卒業生2人とデザイナーを招聘 ・ギャラリートツアー参加者：47人 ・トークイベント参加者：76人

[*ATTENTION=注意、注目する]



「Error of Reality」ギャラリートツアーのようす

(b) 【キャンパスが美術館】主催展

	展覧会人	来館者数	展覧会内容
1	SELECTION 卒業制作展 2023 4月3日(月)～4月29日(土)	135人	卒業作品の中から選抜された作品で構成
2	観察者のまなざし 6月2日(金)～7月1日(土)	560人	本学で学生の教育研究活動の支援にあたっているスタッフを招聘した展覧会
3	昏き器ー琵琶湖 近江の情景展 9月1日(金)～9月24日(日)	435人	歌人河野裕子が詠った「昏き器」をテーマに、収蔵作品(大野先生、浮世絵)で構成した展覧会



「SELECTION 卒業制作展 2023」展示風景



「観察者のまなざし」展示風景

(c) 【キャンパスが美術館】共催展

	展覧会人	来館者数	展覧会内容
1	滋賀の高校美術教員展 2023 8月23日(水)～9月9日(土)	70人	滋賀県内高校の美術教員による展覧会 教育連携推進センターとの共催展
2	淡海の夢 風景展 2023 11月27日(月)～12月9日(土)	543人	附属近江学研究所との共催展。 トークイベント参加者：48人
3	Rolling Egg vol.14 2月15日(木)～2月18日(日)	575人	堅田の絵画・造形教室による展覧会 教育連携推進センターとの共催展 キャンパスツアー参加者：210人



「滋賀の高校美術教員展 2023」展示風景



「Rolling Egg vol.14」学内ツアーのようす

(d) 学生による展覧会

「バスストップギャラリー」を使用して、1週間単位で学生主催の展覧会を開催しています。学生からの主体的・自主的な展示をしたいという要望は強く、令和5(2023)年度は年間31(前期16、後期15)の枠に対して倍率2倍以上となる87人の申込がありました。使用者については抽選で決めています。

⑤教育連携推進センター

平成30年(2018年)度から「教育連携推進センター」を設置し、教育連携事業に取り組んでいます。姉妹校・パートナーシップ校を含む高等学校や美術研究所など高校生をはじめ、幼稚園や小学校、中学校の園児・生徒を対象として、幅広い層に多彩なプログラムを

施しました。令和5年（2023年）度は高校生を対象に延べ26校・9団体に実技・講義等の授業を開講、延べ746人が受講しました。姉妹校・パートナーシップ協定校については、5校で14の連携事業を実施し、高等学校から大学へのスムーズな教育接続の一助とすることができました。その他の高等学校等では施設等の制約があり経験できない授業内容を中心に開講し、高校生が大学での芸術教育を経験する絶好の機会となりました。

高校生以外についても芸術を大切に作る風土づくりを実現していきたいと考え、それぞれの教育資源を生かした内容で小・中学生の児童・生徒を対象とした連携授業等を開講しました。

また、今年度より大津市教育委員会と「大津市のクラブ活動地域移行プログラム」も実施。大津市の美術部の生徒と年3回のワークショップを学内で行い、のべ60名以上の生徒が参加しました。これには、本学の教職課程を受講している学生がリーダーとして参加しています。こうした教育連携の取り組み状況は、本学ウェブサイトに掲載し、積極的に情報を発信しています。今後は、さらに高等学校・大学の双方がそれぞれ独自の目的や役割を有していることを踏まえつつ、接続を柔軟に捉え、一人ひとりの能力を伸ばすために、双方が連携した教育のあり方を検討していきます。特にオーダー型ではなくこちらからメニューを作成しアプローチすることも目指します。

（7）質保証関連

①令和5年度質保証協議会の開催状況

	日 時	議 題
第1回	6月23日	令和5年度質保証協議会年間スケジュール、「学習成果アンケート調査」結果、「授業評価アンケート」結果と令和5年度の内容と進め方、令和5年度FD研修会企画、「PROGテスト」結果と解説会ほか
第2回	7月28日	アセスメント報告、授業評価アンケートの択一選択肢の一部変更、令和5年度FD研修会ほか
第3回	10月27日	令和5年度学習成果アンケート項目確認、シラバス到達目標へのDP項目の設定、PROG独自分析報告、FD研修会参加者数ほか
第4回	11月24日	PROGの値上げと外部アセスメントの見直し提案、DPの解釈と見せ方の提案ほか
第5回	令和6年 2月8日	次年度アセスメントテスト実施。令和5年度授業評価アンケート報告と令和6年度の実施、3つのポリシー検討スケジュール、全国学生調査、令和5年度「PROGテスト」3年生結果ほか
第6回	令和6年 3月22日	3つのポリシー検討作業部会ほか

②IR活動

学位等授与数、休学・退学率、卒業率、就職率、進学率、GPAなどの基礎的な数値は以下の表のとおりです。教員免許状取得者は32名と前年度に比べ大幅に増加、休学率は1ポイント以上増加していますが、中途退学率が3ポイント近く減少しており、離学まで至らず今後の修学の在り方を考えるために休学する学生が増えています。平均修得単位数やGPAについては極端な増減はありませんでした。詳細な調査分析については、令和6年度前期中に行い、カリキュラムや入学者選抜試験などの改善・開発に活用する予定です。

なお、アセスメントテストとして1年生を対象に「PROG」を実施し、その結果を教務委員会に報告し、情報共有を図った上で、1年生の現状のジェネリックスキルを把握することで、

教授方法の工夫に役立てました。その他、「授業評価アンケート」や4年生の卒業時に「学修成果アンケート」を実施し、学生個々の学修成果を点検・評価しました。キャリアサポートセンターにおいては、過去4年間の卒業生を対象に、在学中の教育内容や学生支援サービスに関するアンケート調査を実施し、その改善や見直しを図っています。

◎表 12 学位授与数・資格取得者数

	学位授与数	教員免許	学芸員資格
令和5年度	204人	32人	15人
令和4年度	209人	19人	18人
令和3年度	194人	20人	14人
令和2年度	234人	31人	22人
令和元年度	194人	25人	29人
平成30年度	154人	15人	15人

◎表 13 卒業率・休学率・離学率・留年率

	修業年限 卒業率	休学率	中途退学率※	1年次 留年率	3年次 留年率	4年次 留年率
令和5年度	75.2%	3.1%	1.2%	6.0%	9.4%	8.5%
令和4年度	77.9%	2.0%	4.1%	6.0%	13.0%	3.8%
令和3年度	72.3%	3.1%	5.0%	—	12.2%	6.7%
令和2年度	80.6%	3.0%	3.1%	—	10.1%	4.4%
令和元年度	77.2%	3.7%	4.6%	—	5.2%	5.8%
平成30年度	78.3%	4.2%	4.9%	—	6.8%	7.6%

※休学率は、前期と後期の休学率（各期休学者数÷各期首在籍者数×100）を加算して、2で除した数値。

※中途退学率は5月1日現在の全学生の内、年度途中に退学もしくは除籍となった学生の割合。

◎表 14 学年別平均修得単位数

	1年	2年	3年	4年
令和5年度	35.1単位	74.6単位	104.0単位	127.6単位
令和4年度	34.7単位	74.6単位	104.3単位	127.4単位
令和3年度	36.5単位	73.6単位	105.8単位	127.0単位
令和2年度	34.9単位	72.0単位	107.5単位	127.0単位
令和元年度	37.2単位	71.9単位	106.0単位	126.0単位
平成30年度	36.7単位	74.8単位	104.9単位	127.5単位

◎表 15 学年別平均 GPA（成績平均）

	1年	2年	3年	4年	全体
令和5年度	2.40	2.41	2.40	2.70	2.47
令和4年度	2.32	2.50	2.54	2.70	2.51
令和3年度	2.45	2.60	2.61	2.69	2.59
令和2年度	2.48	2.62	2.64	2.73	2.62
令和元年度	2.53	2.48	2.61	2.68	2.53
平成30年度	2.38	2.70	2.52	2.72	2.57

◎表 16 就職率・進学率など

	対就職希望者 就職率	対卒業生 就職率	進学率	進路決定率※
令和4年度	88.2%	60.8%	6.7%	72.2%
令和3年度	86.0%	60.3%	4.6%	64.9%
令和2年度	85.0%	62.8%	8.1%	70.9%
令和元年度	91.2%	74.7%	2.1%	76.8%
平成30年度	91.3%	75.3%	5.2%	80.1%

※進路決定率は卒業生のうち、就職もしくは進学者の割合。

③FD活動

㊦FD研修会テーマ

- 第1回 授業評価アンケート結果と分析のふりかえりへの活用
- 第2回 「スタディスキル実習」成果報告

㊧参加対象

専任教職員・任期制特別任用教育職員・任期制助教・任期制助手
計52人（休職者除く）

㊨参加状況

第1回 33人（参加率73%） / 第2回 40人（参加率89%）※
※第2回についてはオンデマンド動画を共有し、全教職員に案内。
欠席の教員については動画の視聴とフォームの提出をもってFD参加として扱う。

㊩日程

- 第1回 令和5年9月22日(金)
- 第2回 令和5年10月20日(金)

④SD活動

教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員を対象として、各種業務に必要な知識及び技能を習得、またはその能力及び資質を向上させるための研修を学内で実施するとともに、積極的に外部団体主催の研修会等へ教職員を派遣しています。令和5年度実施した主なSD活動は以下のとおりです。

◎表 17 主なSD活動

日 時	内容・テーマ	主催	参加者
4月18日	全入時代の学生募集・広報戦略	(公)私学経営研究会	入学広報課 1名
5月～6月	研究活動不正行為防止教育・研修会	本学	全教育職員・ 担当事務職員
6月10日	データ活用人材を育成するために～データサイエンス学部の創出と現在地～	NewEducationExpo 実行委員会	入学広報課 1名
6月10日	デジタルトランスフォーメーションとこれからの教育「方法」	NewEducationExpo 実行委員会	入学広報課 1名
6月10日	VR・メタバースの教育利用！どう進める、何ができる	NewEducationExpo 実行委員会	入学広報課 1名
6月23日	『教学マネジメント』実践事例セミナー（オンデマンド）	溝上研究室・リアセック キャリア総合研究所	教学課 1名
6月26日	大学ブランド戦略成功のドライバーとは	私学経営研究会	入学広報課 1名
7月06日		教育人財人財開発 機構	
7月12日	Webセミナー「Appleデバイス管理の虎の巻を伝授!Apple専用MDM「Jamf Pro」とMS純正IDaaS「Azure AD」で実現するAppleデバイス管理とは?～」	三谷商事	クリエイティブサポート 事務課 1名
7月～9月	Webセミナー「Apple School Manager」 Deployment Basics Virtual Session	Apple	クリエイティブサポート 事務課 3名
7月13日	若手の情報活用力強化と人材育成	日本経済新聞社	キャリアサポートセンター 事務課 1名
8月04日	ICT+教育最前線 2023	三谷商事	クリエイティブサポート 事務課 1名
8月17日 19日 25日 28日	東洋大学ビジネス日本語講座	東洋大学	教学課 2名
8月22日 23日	図書館初任者研修	大学図書館近畿イニ シアティブ	クリエイティブサポート 事務課 1名
9月15日	学修成果の可視化と活用を考えるセミナー	学校法人河合塾 教 育研究開発本部、株 式会社 KEIアドバンス	教学課 1名
9月17日	「心が分かるとモノが売れる」	かげこうじ事務所	入学広報課 1名
9月28日	【募集広報の新たな指標】～請求→来校→出願プロセスの終焉 新プロセス解説セミナー～	さんぼう・Doorkel	入学広報課 1名
10月05日	事務局長相当者研修会	日本私立大学協会	事務局長
10月10日	障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー	日本学生支援機構	教学課 1名
10月13日	FUTURE of EDUCATION デジタル×リアルで創造する未来の教育環境	Loftwork	入学広報課 1 名
10月23日 12月11日	国際交流勉強会	大阪学院大学	教学課 2名
10月30日	令和5年度（通算第59回）大学経理部課長相当者研修会（オンライン）	私学事業団	総務課 1名

11月09日	「観点別学習状況の評価の導入と高大接続—大学入試・入学後教育への期待と課題—」	東海国立大学機構アカデミック・セントラル高大接続連携部門セミナー	入学広報課 1名
11月12日	教務担当者のための国際部門基礎知識勉強会	大学教務実践研究科他	教学課 2名
11月16日	就職部課長相当者研修会	日本私立大学協会	キャリアサポートセンター事務課 1名
12月06日	オンラインセミナー「IIJ 文教プラットフォームセミナー 2023」	インターネットイニシアティブ	クリエイティブサポート事務課 1名
12月06日	障害のある大学生の支援を考えるミーティング	大学コンソーシアム京都	教学課 1名
12月08日	図書館員のためのカビ・ムシ被害予防と対策	明治クリックス	クリエイティブサポート事務課 4名
12月14日	可視化で止めない！テーマ別 GPS・Academic 活用事例セミナー	ベネッセ iキャリア	教学課 1名
1月18日	京都芸術教育フォーラム	京都芸術教育コンソーシアム	事務職員 3人 入学広報課 2名
1月19日	メタバースの最新ビジネス活用	RX Japan	クリエイティブサポート事務課 1名 入学広報課 1名
1月19日	デジタルマーケティング最前線	RX Japan	入学広報課 1名
1月22日	著作権法と大学図書館～令和3年の著作権法改正を中心に～	国公私立大学図書館協力委員会 日本図書館協会大学図書館部会	クリエイティブサポート事務課 1名
1月25日	大学等就職部担当者向けアウトプットサポートセミナー	京都労働局	キャリアサポートセンター事務課 1名
1月25日	「働き方改革」って何？～基礎から今後の展望まで～	全国労働基準関係団体連合会	キャリアサポートセンター事務課 1名
1月30日	『教学マネジメント』実践事例セミナー	溝上研究室・リアセックキャリア総合研究所	教学課 1名
2月05日	オンラインセミナー Google Workspace for Education 勉強会「Google コアサービスのポリシー設定」	サテライトオフィス	クリエイティブサポート事務課 1名
2月08日 09日	Jamf Pro 講習会	マジックハット	クリエイティブサポート事務課 6名
2月13日	社会人として働く時に必要な労働法とは	全国労働基準関係団体連合会	キャリアサポートセンター事務課 1名
2月23日	第29回FDフォーラム 第8分科会（オンライン参加） 「生成AIと人類の未来: 技術、教育、魂、共存の可能性」	大学コンソーシアム京都	入学広報課 1名
2月23日	第29回FDフォーラム 第12分科会（オンライン参加） 「“人・AI 新世”の時代の学びとその支援」	大学コンソーシアム京都	入学広報課 1名
3月01日	第5回 障がい学生支援に関する研修会	本学	全教職員
3月07日	嘉悦大学・北陸大学 IR シンポジウム 2023	嘉悦大学 北陸大学	教学課 1名 入学広報課 1名

■ 成安幼稚園

【1】基本理念・教育の目的・教育目標

1. 成安幼稚園の基本理念

豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる。

本園は、「子どもの生活は遊びながら…」が保育の基本であると考えています。偏った英才教育では、心は見失われてしまいます。

本園は、長い伝統を誇る京都成安学園の建学の精神「成安」、校訓「誠と熱」の信念を柱とし遊びを中心とした総合的保育で、創造力の豊かな心と健やかな体を育てます。

本園は、現代社会に失われつつあるものを育てることが大切であると考えています。

2. 成安幼稚園の教育の目的

- (1) 健康・安全で幸福な生活のために必要な基本的生活習慣を養うとともに、身体諸機能の調和と発達を図る。
- (2) 集団生活を経験し、協調性、自立及び自律の精神の芽生えを養う。
- (3) 社会の様々なものごとに対し、正しい理解と態度の芽生えを養う。
- (4) 人との関わりの中で、意思伝達能力を養い、信頼関係を築く。
- (5) 経験をとおして感性を育て、創造力を豊かにし表現する力を養う。

3. 成安幼稚園の教育目標

一人ひとりの子どもを大切に、基本理念に基づいた保育を行い、心豊かな子どもに育てます。

【2】幼稚園 中長期経営計画

- (1) 成安幼稚園の運営方針
- (2) 社会に対する基本姿勢
- (3) 満3歳児保育の開始とクラス編成の見直し
- (4) 保護者や地域社会からの信頼と協力を得るための正確な情報の発信
- (5) 保育教育の質の向上
- (6) 人材マネジメントの推進と教育職員配置計画
- (7) 園児獲得目標の明確化と健全な財務規律の確立
- (8) 安全で快適な保育環境の整備
- (9) コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立

【3】中長期経営計画に基づく事業計画

1. 成安幼稚園の運営方針

基本理念「豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる」に基づき、令和5年度から2歳児・満3歳児保育を開始した。満3歳になるまでの2歳児を含め、1クラス25名の定員に対して転居による入園辞退1名はあったものの途中入園も含め25名の在籍となり、教育職員3名体制で実施した。なお、園全体のクラス数及び在園数は下表の通りである。

学年	歳児	クラス数	園児数 (4/1)	園児数 (10/1)	園児数 (3/31)
わかば・あお（幼少）	2歳児・満3歳児	1	21	23	25
あか（年少）	3歳児	2	42	43	43
き（年中）	4歳児	2	45	45	46
もも（年長）	5歳児	3	63	63	63
合計		8	171	174	177

2. 社会に対する基本姿勢

保護者の社会活動への参加を支援するため、預かり保育事業を継続したが大きな拡充を図るまでには至らなかった。新型コロナウイルス感染症対策を緩和し、終了時間を通常の午後6時までとした。また、年長ぐみのみ第3学期で計5回、無条件で預かることを実施。令和6年度に向けて更なる子育て支援のため、就労等の特別な事情のみの預かり保育条件の見直しを協議し、実施に向けた体制整備を図った。

3. 満3歳児保育の開始とクラス編成の見直し

- (1) 2歳児・満3歳児保育を1クラス教育職員3名で運営。途中入園もあり最終在園者数は定員の25名に達した。初年度として備品の購入等教育・保育の環境整備を行った。課題として、満3歳児の入園日を誕生日以降翌月1日の間で選択を可能としたことにより、保育料月額満額を納入しても全日出席できない園児や2歳児保育を利用している間は通園できたが、満3歳児の入園日を迎えるまでの間は通園できない期間が発生する等、必ずしも適正でない事象が生じたので、令和6年度からは原則誕生日を入園日とし、保育をしない4月2日から第1学期の最初の保育日の前日までに誕生日を迎える園児は最初の保育日を入園日とする園則の改正を行い改善を図った。また、これにより、わかばぐみ利用料及び無償化対象である保育料を実態に合わせて徴収することが可能となった。
- (2) 教育職員態勢の整備の継続
乳幼児保育経験者を更に増加する採用活動は未実施であったが、1年目の実績を踏まえ、次年度に向けて教育職員の体制整備を図った。
- (3) 効果的な広報の実施
阪急洛西口駅の看板を車窓風に全面リニューアル。入園説明会及び願書受付のターポリン幕の設置。園庭開放のプレスリリース実施。入園説明会及び願書受付新聞広告チラシ配布エリアの拡大。広報MUKO子育て支援拠点の催し掲載等次年度に向けて更に新規募集対策を実施する予定である。
- (4) 満3歳児保育において入園特典として体操ズボンの半額補助を実施。

4. 保護者や地域社会からの信頼と協力を得るための正確な情報の発信

これまでの一斉メール送信システム及びバス運行システムを廃止し、11月1日から新システム「園支援システム」を導入した。アイテムとして保護者は「れんらくアプリ」をインストールし、欠席・遅刻・早退・園送迎バス不要・集団降園不要連絡、預かり保育申込、園送迎バス運行情報等さまざまな情報をスマートフォンで利用でき、かつ情報の一元化を図ることが可能となった。新システムはその他指導要録や保育計画、連絡帳等多種多様な機能を有しており、業務効率化に繋げることが可能。SNS等の情報提供ツールを活用して、広く一般社会に本園の活動を公開し活性化を図ることはできなかったが、次年度に向けてホームページのリニューアルやインスタグラムでの発信、補助金を活用した広告媒体での広報を実施する予定である。

5. 保育教育の質の向上

(1) 各年次の教育・保育目的

・2歳児（わかばぐみ）・満3歳児教育・保育（幼少ぐみ）（あおぐみ）

教育環境、教育内容、教育職員体制を整え、実態を的確に把握し、柔軟にかつ乳幼児の様子をつぶさに感じとり、「あそび」を通して家庭とは異なる環境に慣れることに繋げることを目的とし日々試行錯誤を重ねてきた。次年度さらに充実を図るため、園長をはじめ園全体のこととして捉え、実態を把握しながら2歳児・満3歳児の検証を定期的実施する。

・3歳児教育・保育（あかぐみ）（年少ぐみ）

これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、家庭から離れ、集団生活に必要な不可欠な基本的な自立、他者との関係性、決まりやルールがあることを1年を通して学び、また「あそび」から感じた感性、気づき、興味を自己のめばえに繋げることを目的とし、日々執行錯誤を重ね、次年度に繋げることができた。

・4歳児教育・保育（きぐみ）（年中ぐみ）

これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、自分のできることは自分でやってみるものの自立、自分の感情を自律する能力、「あそび」から感じた他者とのコミュニケーションの大切さ、楽しみを自己の成長に繋げることを目的とし、日々試行錯誤を重ね、次年度に繋げることができた。

・5歳児教育・保育（ももぐみ）（年長ぐみ）

これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、他者と自分との更なる関係性を構築し、協力、協調、意思疎通を通して喜怒哀楽等の感情を分かち合い「あそび」から創意工夫し、新しい発想を自己の気づきに繋げることを目的とし、試行錯誤を重ね次年度繋げることができた。

・配慮の必要な園児

特別な配慮を要する園児が増加傾向にあり、社会の多様化とともに教育・保育も対応が求められていることを受けて副担任制度を導入している。また、外部の臨床心理士によるカウンセリングの実施を10日に増加。その他、外部の療育施設と情報共有・連携を密にし、園児や家庭に対して更なる目配り、配慮を実践した。

(2) 各種行事

コロナ禍により、規模縮小や入場制限を実施してきた各種行事は、極力制限なく実施した。うんどうかいでは、参観人数を制限せず、マスク着用も任意とした。行事ごとは集団で協力することや伝統や文化を学び、感動に触れあえる貴重な教育ソースであり、形骸化することのないよう内容や意義の見直しを図り、効果的な行事運営を実施し、次年度に向けて更なる検討を重ねていく。

(3) 研修を活用した教育力の向上

教育職員の「思考力」「創造する力」を育成するため研修制度の充実を図った。コロナ禍も落ち着いたので、対面型の研修に参加。新規採用者は初任者研修（7回）、2歳児・満3歳児保育に関連の乳幼児保育研究会（4回）、中堅教育職員はミドル研修（7回）を受講した。

また、これまで常勤する教育職員に対して、研究手当として図書券が配付されていたが、成安幼稚園個人研究費規程を制定（令和5年10月27日付）し、学校法人京都成安学園経理規程等に則り、研究に資するもの全般に予算執行が可能となり有効性が増加した。

(4) 特色のある教育内容

私立幼稚園の強みとして、併設校に芸術系大学を擁する幼稚園として、園児の自由な発想、創作意欲をさらに醸成するよう特色のある教育内容を強化した。

・大学との教育連携

大学の教育職員の協力により、幼稚園部門の教育職員の造形教育へのアドバイス、感性を養うための多角的な視点での指導を受け、教育の幅を広げることに繋がった。また、直接園児へのワークショップを通じて造形教育を実施。保護者も参加するなど他園との差別化が図られた。幼大教育連携の内容は下表の通りである。

【幼大教育連携】

月日	学年	取り組み内容
6月6日(火)	年長ぐみ	紙コップであそび
9月8日(金)	年中ぐみ	マラカスをつくろう
9月9日(土)	未入园児	お絵描きをしよう
1月15日(月)	年少ぐみ	ランプシェイド作り

【主な暦事】

4月5日	木	半日入園(満3歳全員対象)
4月11日	火	始業式
4月12日	水	入園式
4月13日	木	危機管理により集団降園をお迎えに変更
5月8日	月	はじめましての会(満3歳児)
5月26日	金	保護者会前期総会
6月2日	金	台風2号の接近に伴う大雨警報により休園
6月6日	火	幼大教育連携(年長ぐみ)紙コップであそぼう
7月20日	木	第1学期終業式
7月24日~28日	月~金	夏期保育(11:30まで保育)
7月31日~8月25日	月~金	預かり保育のみ(ただし、休園等除く)
7月31日~8月18日	月~金	第1保育棟施設設備改修事業(夏季休暇)廊下(1,2階)階段室の床、壁、天井、LED化
8月28日~31日	月~木	通常保育開始(午前保育)
9月1日	金	第2学期始業式
9月1日	金	入園案内募集活動開始解禁日
9月1日	金	入園案内パンフレット、入園説明会チラシ等配付開始日、園児募集中ターポリン幕設置
9月8日	金	幼大教育連携(年中ぐみ)マラカスをつくろう
9月9日	土	令和6年度募集入園説明会(満3歳児) 令和6年度募集入園説明会(3,4,5歳児) 幼大教育連携(未入园児)お絵描きしよう
9月13日	水	令和6年度募集入園説明会(満3歳児) 令和6年度募集入園説明会(3,4,5歳児)
10月1日	日	令和6年度園児募集願書受付開始
10月2日	月	令和6年度募集願書受付開始
10月4日	水	令和6年度入園試験
10月5日	木	令和6年度入園試験
10月26日	木	令和6年度入園手続き締切日
11月1日	水	園運営システム、連絡アプリ運用開始
11月1日	水	アデノウイルス感染症による学年閉鎖(年中ぐみ)
11月2日	木	アデノウイルス感染症による学年閉鎖(年中ぐみ)
11月8日	水	制服等採寸
11月10日	金	阪急洛西口駅看板全面リニューアル
11月11日	土	せいあんふれあいDAY
11月13日	月	振替休園(11月11日)

11月16日	木	中間監査（実地監査）
12月20日	水	終業式
12月21日～12月26日	木～火	預かり保育のみ実施
12月27日～1月8日	水～月	冬期休暇
1月10日	水	第3学期始業式
1月10日	水	園則変更（令和6年4月1日改正施行）受理済
1月10日～3月8日	水～金	ももぐみ限定の預かり保育実施（1園児5回のみ無条件にて申込可）
1月15日	月	幼大教育連携（年少ぐみ）ランプシェイド作り
1月19日	金	監事監査
2月7日	水	制服販売日
2月14日	水	京都府南部を震源とする地震により向日市は震度3。預かり保育の園児21名園庭へ避難
2月15日	木	京都府南部を震源とする地震により向日市は震度1。園児166名園庭へ避難
2月17日	土	半日入園
2月28日	水	保護者会後期総会
3月4日	月	謝恩会
3月15日	金	卒園式

・作品展の実施

本園にて11月24日に作品展を開催。園児が日頃取り組んだ描画やデザイン画、立体作品を保育室や遊戯室に展示し、保護者への観覧の機会を設けた。コロナ禍による人数制限を解除し、兄弟姉妹、祖父母の方々など多くの方に来園いただき、成安幼稚園を知ってもらえる機会となり募集対策に繋げることができた。成安造形大学キャンパスが美術館ギャラリーでの作品展開催は、計画がまだ未成熟で未検討であった。幼大連携の更なる推進、幼稚園保護者への四年制大学への興味関心に繋げていけるよう次年度への課題であった。

(5) その他、外部への作品出展

公益社団法人京都府私立幼稚園連盟が主催する「第61回かいが展」が京都高島屋グランドホールにて開催された。本園園児も12名が出展し、好立地の条件もあり、多くの方に観覧され今後も継続して出展する。また、令和2年度から京都新聞地域版に園児の絵画作品が掲載され、今年度も6月2日付、10月6日付、令和6年2月23日付発刊の新聞誌上に掲載されるなど外部へ積極的にPRした。

(6) せいあん美術館幼稚園ギャラリー（仮称）の設立

2024（令和6）年には開園95年、2029（令和11）年には開園100年を迎えるにあたり、新園舎を中心とした保育棟や園庭に園児の作品を常時展示し、また制作する過程を公開するなど広報的な魅力を発信し、特色ある唯一無二な幼稚園のブランディングを構築するため、せいあん美術館幼稚園ギャラリー（仮称）を設立し、施設・環境整備を図ることが検討中であるが、予算措置がなく具体的な実施までには至らなかった。園児への効果として自分の作った作品がより広く公表され、多くの方々に観覧されることで自己の肯定感と意欲の向上に繋げることができ、広く幼稚園の教育活動を公表することで地域社会に開かれた幼稚園として募集対策に繋げることができるので、次年度は、予算措置と並行して可能な範囲で実施していくこととする。

(7) 幼稚園小学校連携

小学校教育職員との連携によるスムーズな小学生への移行のため懇談を重ねた。園児・保護者が不安のない進学、また近隣地域で顔がみえる見守り環境が育成されるような地域全体での環境を強化する特段の手立てはできなかったもののその都度連携・情報交換をおこなった。

(8) 成安幼稚園教育体系の構築

開園 95 周年を迎えるにあたり、これまでの教育・保育をより可視化、特色を顕在化し、体系化することでより成安特有の教育・保育を構築し、一般的にわかりやすい単的な説明言語化を図り、教職員全員が共通理解し、特に教育職員において普段の教育・保育を行う上での指針や既に行っている事柄を具現化することによって、教育・保育の充実・発展及び募集活動等への効果を図ることを目的に教育体系を整備することを開始した。体系化することは、期限ありきでなく、拙速に構築するものではなく、また形骸化することも懸念されるため、約 1 年程度時間をかけて継続し、構築していく予定である。「ふれあい教育」をフレーズとして設定しているが、今後議論を重ねてより成安幼稚園にフィットするフレーズを検討する。成安独自の教育メゾットを開発し、発展的継続を追求していくことを目標とした。

6 人材マネジメントの推進と教育職員配置計画

(1) 教育職員の将来的な人材マネジメント

教頭は不在であったが、園長を中心に 4 学年の学年主任及び事務局と協力し、教育・保育の質を維持し、管理・運営を行った。中堅の教育職員 1 名はミドル研修（中堅教員研修会）に全 7 回参加し、2 歳児・満 3 歳児保育担当の教育職員は乳幼児保育研究会に 4 回、採用 1 年目の教育職員は、初任者研修会に 7 回参加するなど充実を図り、園内外の研修を実施、参加した。なお、次年度から教頭を配し体制整備を図った。

(2) 教育職員の配置

各クラス定員 25 名につき担任 1 名を配し、各学年に副担任を配した。また、人手が必要になった場合は、柔軟に協力体制をとった。また、年々利用が増加している預かり保育事業について、京都府私立幼稚園等預かり保育推進特別補助金も活用しながら人的強化を図り、事業拡大のため、次年度から常勤講師 1 名を配置し、非常勤講師 1 名を補充する等採用計画を実施した。

7 園児獲得目標の明確化と健全な財務規律の確立

(1) 入園者の安定的な確保

本年度の募集活動から満 3 歳児からの進級を考慮した活動となった。満 3 歳児及び 3 歳児において、目標とする入園者を確保するには至らなかった。

満 3 歳児保育の開始も含め、認知度向上のため、阪急洛西口駅構内の看板広告を車窓風デザインに全面リニューアルし、入園説明会・願書受付の新聞広告の頒布範囲を拡大した。正門横のフェンスに「園児募集中」「願書受付中」に関するターポリン幕を設置。入園説明会はより園児・保護者に親しんでもらえるよう 3 歳児以上のみ体験型を導入した。保育体験や園バス乗車体験、制服展示等能動的要素を強化した。また、コロナ禍により中止していた園庭解放を 4 月から 12 月の間計 12 回実施した。なお、次年度からは園庭開放の広告を 4 月に近隣地域に配布。また、内容を成安造形大学協力のワークショップ等、特別な拡大バージョンを 5 回企画し、より魅力的なイベントになるよう強化する。

【令和 6 年度願書出願等状況】

項目	満 3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
募集定員	25	25	若干名	若干名	50
出願者数	15	23	1	1	40
受験者数	15	22	1	1	39
入園者数	13	18	1	1	33

・令和 6 年度園児募集入園説明会：令和 5 年 9 月 9 日（土）・13 日（水）開催

【主な募集対策強化策】

- ・園庭開放（幼稚園であそぼう）全 16 回中 12 回開催。
- ・成安造形大学ワークショップ等の体験型入園説明会を実施。
- ・入園説明会及び願書受付新聞広告チラシ配布エリアの京都市南区を追加、拡大（2,000 枚増）
- ・入園説明会、願書受付のターポリン幕設置（正門前ロータリーフェンスに取り付け）
- ・阪急洛西口駅看板車窓風デザインに全面リニューアル
- ・プレスリリース（園庭開放）

【見学者情報】

該当年次	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4歳児クラス	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	4
3歳児クラス	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	5
2歳児クラス	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	6
6年度4歳児	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
6年度3歳児	5	2	1	3	0	0	0	1	4	1	17
6年度2歳児	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	4
7年度満3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	11	6	1	10	0	1	1	1	5	3	39

【園庭開放 ようちえんであそぼう】

月日	4/19	4/26	5/17	5/31	6/14	6/28	7/12	7/21	9/6	9/20	10/3	10/18	11/15	11/29	12/13	1/17
参加者数	中止	中止	16	中止	中止	12	16	17	11	9	8	10	8	9	13	12

*わかば・あおぐみ入園児が参加した場合は除く。園庭開放、見学者等重複含む。

【入園説明会参加者数】

R6	満3歳児	3, 4, 5歳児	合計	R5合計	対前年比
9月9日（土）	15	17	32	45	△28.8%
9月13日（水）	11	8	19	36	△47.2%
合計	26	25	51	81	△37.0%
R5合計	34	47	81	—	—
対前年比	△23.5%	△46.8%	△37.0%	—	—

*減少の要因は、令和5年度から既に25名の満3歳児が在籍。近隣競合の幼稚園が昨年とは異なり同日同時開催が増加したことが主な要因である。しかしながら全体的に大幅に減少していることは否めない。

(2) 予算執行管理

2歳児保育・満3歳児保育等目的分類科目ごとに類型を設定し、グループ化を図りより緻密に予算管理を行った。四半期ごとに、運営協議会で執行状況や残額を情報共有するなど、計画的な執行を重要視した。

(3) 外部資金獲得

補助金はこれまでの経常的補助金に加え、京都府物価高騰等臨時支援事業補助金や ICT

化、LED化、送迎バス安全装置等各種補助金を獲得した。また、預かり保育事業の利用者が増加したことにより、下表の通り利用料の増収となった。

【預かり保育事業の利用額】

年度	利用料総額
令和4年度	3,056,400円
令和5年度	4,597,500円

8 安全で快適な保育環境の整備

(1) 施設設備の改修

昨年度に引き続き、老朽化している第1保育棟の廊下及び階段室を改修した。また、保護者会寄贈による正門前ロータリーにカーブミラーを設置するなど安全面を整備した。今年度から始まった2歳児・満3歳児保育の保育室内の整備を図ったが、未だ整備する物品、施設もあるので次年度も継続して整備することとした。なお、次年度は第1保育棟1階内装改修工事、管理棟空調更新工事を計画している。

(2) 送迎バス

2022（令和4）年9月に静岡県牧之原市の幼稚園通園バス園児置き去りの事件を受け、「通園バス運行に伴うマニュアル」を見なおし、運転手、添乗員と改めて共有を図った。乗降車時における点呼の徹底と降車後の車内確認を運転手、添乗員のあと、教職員も実施。その確認者を台帳に記載することとした。また、送迎バスに置き去り防止の安全装置を取り付けた。なお、バス利用状況は下表の通りである。

【送迎バス利用状況】

学年	利用者数(R5)	R5全園児に対する利用率	利用者数(R4)
あか（3歳児）	18	41.9%	17
き（4歳児）	12	26.1%	15
もも（5歳児）	12	19.0%	15
合計	42	29.0%	47

(3) 危機管理

昨年度、成安幼稚園危機管理規程を制定し、12月には危機管理対応マニュアルを更新した。また、避難訓練を年間3回実施。事前に危機管理対応マニュアルを全教職員で共有。園児を安全にかつ確実に保護者に引き渡すため「園児引き渡しカード」を活用し、全学年保護者とデモンストレーションを実施した。なお、2月14、15日に京都府南部を震央とする地震が発生し在園児を園庭に安全にかつ速やかに避難させることができた。今後もあらゆる危機を想定し、即応するべく対応マニュアルの更新及び教職員の意識向上、施設設備面での強化を図っていく。

(4) 警備

正門入口、東門入口とも常に施錠し、入出管理を徹底。来園する保護者は保護者証の確認を徹底した。セコム警備システムも継続して導入し、開閉園中に関わらずセコム警備システムを作動。保育室にはサスマタを常備し、不審者の侵入に備えている。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

主に園児の感染症対策であるが、感染症法上の分類が5類に移行されたことを受け、下表の通りの対応を適減した。

【新型コロナウイルス感染症対策】

① 園児の感染は発症日を0日として5日間の出席停止後、軽快してから24時間経過観察後、登園可
② 同一家族が罹患の場合で、園児に特段の症状がない場合は、数日間の経過観察のための欠席を要請
③ 手洗い、消毒の徹底（消毒液等の設置）
④ 保育室等の常時換気
⑤ 保育室内の空気清浄機設置
⑥ 送迎バス車内の消毒
⑦ 校医（加藤小児科医）への随時相談

なお、教職員の場合は同一家族が罹患した場合であっても、本人が無症状の場合で検温及び基本的な感染予防をして出勤することを可能とした。

(1) 幼稚園周辺環境

正門前道路は緩やかなS字カーブであり、かつ鉄道の阪急、JRの最寄り駅の幹線道路となっているため交通量が多く危険性が高い。今年度、保護者会の寄付によりカーブミラーを設置することができた。今後もさらに安全性を確保するよう官公庁等に働きかけを行う。また、阪急洛西口駅西側の広大な敷地が現在開発中であり、集団降園や土地利用方法によっては本園にも大きな影響があるので、今後、最新の情報を常に取得するように努めていく。

(2) 登降在園時の状況確認

登降在園状況をより正確にかつ簡便に把握できる園支援システムを11月1日から導入し、運用を開始した。その他、預かり保育利用や課外活動、その他園児の情報が一元化され状況確認が向上した。

(3) 施設設備全般

計画通り、第1保育棟整備の2年目を実施した。また、軽微な施設設備を予算内において実施した。また、送迎時等の車の駐停車は、経年の課題である。時折、正門前ロータリー及び道路上での渋滞が発生し、安全性はもとより近隣地域に支障も生じている。2歳児・満3歳児クラスの保護者や預かり保育での送迎には幼稚園契約の駐車場（4台分）を効果的に利用し、課題の解決を図った。次年度は、全学年に駐車場利用における送迎方法の在り方を検討する。

9. コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立

法規並びに学園の規程等を遵守し、懸念されるような法的事象は起きなかった。引き続きコンプライアンス意識の向上とガバナンスの強化に取り組み、研修等を活用した高い意識の組織管理運営を継続していくこととした。また、現状に即して成安幼稚園保育料等の軽減規程を廃止し、一部内容を園則に規定するなど整備。また、原則、電磁的記録媒体USBは使用禁止にし、データウイルス感染、データの漏洩等に備えることとした。

【4】その他

(1) 管理運営

・運営協議会

昨年度、成安幼稚園運営協議会規程を整備し、本年度合計11回開催した。

【協議事項】

幼稚園の運営全般に関する事項
幼児の教育・保育に関する事項
年中行事に関する事項
園児の募集に関する事項
新規事業に関する事項
その他園長が必要と認めた事項

(3) 会議体

予算会議、施設設備会議、人事会議、募集対策会議を適宜開催し、遅滞なく園の運営や事業、体制を整備することができた。次年度には更に定型化を図り、効率よく効果的な会議体として機能させ、管理運営上の通常業務化による会議通減に繋げる。

3 法人の事業の概要

(1) 理事会

令和5年度は、当初計画どおり10回理事会を開催しました。理事の出席率は98.0%（書面による意思表示を含む）、監事の出席率は95.0%でした。

(2) 評議員会

令和5年度は、当初計画どおり3回評議員会を開催しました。評議員の出席率は100.0%（書面による意思表示を含む）でした。

(3) 責任限定契約の締結

本法人は、寄附行為第41条4の規定に基づき、令和2年度から非業務執行理事及び監事との間で責任限定契約を締結しています。

非業務執行理事若しくは監事はその任務を怠ったことにより本法人に損害を与えた場合において、非業務執行理事若しくは監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、非業務執行理事にあつては金200万円、監事にあつては金500万円と、非業務執行理事若しくは監事はその在職中に学校法人から職務執行の対価として受け、又は受けるべき財産上の利益の1年間当たりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額（責任限度額）を限度として、本法人に対し損害賠償責任を負う契約内容です。ただし、損害額のうち責任限度額を上回る部分については、本法人は非業務執行理事若しくは監事を当然に免責するものとします。

(4) 役員賠償責任保険契約の締結

本法人は、令和2年度から日本私立大学協会を契約者、本法人を記名法人とする役員賠償責任保険（D&O マネジメントパッケージ（経営責任総合補償特約条項・特定危険不担保特約条項・会社有価証券賠償責任等不担保特約条項・役員の定義修正特約条項・追加保険料の払込猶予に関する特約事項付帯 会社役員賠償責任保険））に加入しています（団体契約）。引受保険会社は東京海上日動火災保険株式会社です。

個人被保険者は、理事、監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員で、総支払限度額は300,000千円（免責金額0円）です。

また、令和4年度からは、日本私立大学協会が契約者となるサイバーリスク保険契約も締結しています。

(5) 補償契約の締結

本法人は、役員職務執行の過度な萎縮を防ぎ責任をもって適正な業務執行を行う環境を整えることを目的として、令和3年度からすべての役員との間で補償契約を締結しています。

・補償契約の内容

- (1) 役員がその職務の執行に関し、法令の規定に違反したことが疑われ、又は責任の追及に係る請求を受けたことに対処するために支出する費用の全額
- (2) 役員がその職務の執行に関し、第三者に生じた損害を賠償する責任を負う場合における次に掲げる損失
 - ・当該損害を役員が賠償することにより生ずる損失の全額
 - ・当該損害の賠償に関する紛争について当事者間に和解が成立したときは、役員が当該和解に基づく金銭を支払うことにより生ずる損失の全額

4 学納金等

(1) 大学の学納金等【令和5年度】

①芸術学部 総合領域

単位:円

学年	学納金等		令和5年度		
			【2期に分けて納入する場合】		年額
			前期	後期	
1年生	学費	入学金	200,000	—	200,000
		授業料	490,000	490,000	980,000
		教育充実費	91,250	91,250	182,500
		学費計	781,250	581,250	1,362,500
	その他の徴収金	領域別交流会費	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金	5,000	—	5,000
		教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	37,000	0	37,000
	合計		818,250	581,250	1,399,500
2・3年生 / 2・3年次編入生	学費	授業料	490,000	490,000	980,000
		教育充実費	91,250	91,250	182,500
		学費計	581,250	581,250	1,162,500
		入学金(編入生のみ)	200,000	—	200,000
		学費計(編入生)	781,250	581,250	1,362,500
	その他の徴収金	教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	30,000	0	30,000
		領域別交流会費(編入生のみ)	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金(編入生のみ)	5,000	—	5,000
その他の徴収金計(編入生)	37,000	0	37,000		
合計(2・3年生)		611,250	581,250	1,192,500	
合計(編入生)		818,250	581,250	1,399,500	
4年生	学費	授業料	450,000	450,000	900,000
		施設実習費	75,000	75,000	150,000
		学費計	525,000	525,000	1,050,000
	その他の徴収金	教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		卒業アルバム制作費	—	10,000	10,000
		同窓会費(終身会費)	—	20,000	20,000
		その他の徴収金計	30,000	30,000	60,000
	合計		555,000	555,000	1,110,000

③芸術学部 地域実践領域

単位:円

学年	学納金等		令和5年度		
			【2期に分けて納入する場合】		年額
			前期	後期	
1年生	学費	入学金	200,000	—	200,000
		授業料	450,000	450,000	900,000
		教育充実費	31,250	31,250	62,500
		学費計	681,250	481,250	1,162,500
	その他の徴収金	領域別交流会費	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金	5,000	—	5,000
		教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	37,000	0	37,000
	合計		718,250	481,250	1,199,500
2・3年生 / 2・3年次編入生	学費	授業料	450,000	450,000	900,000
		教育充実費	31,250	31,250	62,500
		学費計	481,250	481,250	962,500
		入学金(編入生のみ)	200,000	—	200,000
		学費計(編入生)	681,250	481,250	1,162,500
	その他の徴収金	教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	30,000	0	30,000
		領域別交流会費(編入生のみ)	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金(3年次編入生のみ)	5,000	—	5,000
その他の徴収金計(編入生)	37,000	0	37,000		
合計(2・3年生)		511,250	481,250	992,500	
合計(編入生)		718,250	481,250	1,199,500	

②芸術学部

イラストレーション領域・美術領域・情報デザイン領域・空間デザイン領域

単位:円

学年	学納金等		令和5年度		
			【2期に分けて納入する場合】		年額
			前期	後期	
1年生	学費	入学金	200,000	—	200,000
		授業料	770,000	770,000	1,540,000
		教育充実費	31,250	31,250	62,500
		学費計	1,001,250	801,250	1,802,500
	その他の徴収金	領域別交流会費	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金	5,000	—	5,000
		教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	37,000	0	37,000
	合計		1,038,250	801,250	1,839,500
2・3年生 / 2・3年次編入生	学費	授業料	770,000	770,000	1,540,000
		教育充実費	31,250	31,250	62,500
		学費計	801,250	801,250	1,602,500
		入学金(編入生のみ)	200,000	—	200,000
		学費計(編入生)	1,001,250	801,250	1,802,500
	その他の徴収金	教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		その他の徴収金計	30,000	0	30,000
		領域別交流会費(編入生のみ)	2,000	—	2,000
		教育後援会入会金(編入生のみ)	5,000	—	5,000
その他の徴収金計(編入生)	37,000	0	37,000		
合計(2・3年生)		831,250	801,250	1,632,500	
合計(編入生)		1,038,250	801,250	1,839,500	
4年生	学費	授業料	780,400	780,400	1,560,800
		学費計	780,400	780,400	1,560,800
	その他の徴収金	教育後援会年会費	20,000	—	20,000
		学生会年会費	10,000	—	10,000
		卒業アルバム制作費	—	10,000	10,000
		同窓会費(終身会費)	—	20,000	20,000
		その他の徴収金計	30,000	30,000	60,000
	合計		810,400	810,400	1,620,800

(2) 幼稚園の学納金等【令和5年度】

単位:円

学納金等	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
入園料	80,000	80,000	80,000	80,000
保育料	308,400	308,400	308,400	308,400
絵本代	-	5,400	5,400	5,400
保護者会費	-	18,000	18,000	18,000
保育用品代	6,000	7,200	3,600	2,400
給食費	-	18,000	30,000	30,000
その他の園納金計	6,000	48,600	57,000	55,800
合計	394,400	437,000	445,400	444,200

入園料80,000円は、入園児のみの納付です。

単位:円

令和5年度「わかばぐみ」保育料(利用料) 1,000(1日につき)
※個人により料金が異なります

Ⅲ 財務の概要

1 令和5年度決算の概要

(1) 資金収支計算書（活動区分資金収支計算書含む）

資金収支計算書は、資金活動の安全性を表します。そのため、当該年度の諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、すなわち本法人に流入した資金と流出した資金の内容と、当該年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことが可能な預貯金）の顛末を明らかにしています。

また、近年の施設設備の高度化と財務活動の多様化に対応して活動区分ごとに現金預金の流れを区分した活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の附属表として、資金収支計算書の決算額を教育活動、施設整備等活動、その他の活動という3つの活動に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにしています。企業会計でいうところのキャッシュ・フロー（CF）計算書に相当するものです。

(a) 収入の部

収入の部合計から前年度繰越支払資金を差し引いた資金収入は、予算額 2,486,581 千円対して 120,248 千円（4.8%）増の 2,606,829 千円、学生生徒等納付金収入から借入金等収入までの収入（実収入）の合計は、予算額 1,931,838 千円に対して 2,524 千円（0.1%）増の 1,934,362 千円でした。実収入合計は前年度に比べて 101,150 千円増加しました。

実収入においては、補助金収入と付随事業・収益事業収入、雑収入を除く科目で予算額を上回る収入がありました。なお、令和5年度の借入金等収入はありません。

実収入に占める割合が学生生徒等納付金収入の 77.6%、補助金収入が 13.8%と、この2つの科目で収入の9割以上を占める構造には変化はありません。

(b) 支出の部

支出の部合計から翌年度繰越支払資金を差し引いた資金支出は、予算額 2,431,425 千円に対して 61,016 千円（2.5%）増の 2,492,441 千円、人件費支出から設備関係支出までの支出（実支出）の合計は、予算額 1,901,651 千円に対して 28,101 千円（1.5%）減の 1,873,550 千円でした。実支出においては、教育研究経費支出と施設関係支出で予算額を下回りました。借入金等返済支出については今年度末が金融機関休業日であったことから返済期日が令和6年度になってしまったことにより、予算額を下回ることとなりました。

令和5年度は、大学において、実習 G 棟・H 棟屋上防水工事、実習 B 棟トイレ・内部改修工事、実習 C 棟内部改修・電気設備工事に係る支出、幼稚園において第1保育棟の改修工事に係る支出などを行いました。なお、教育研究経費支出に占める奨学費支出の割合は 44.1%で、大学における給付奨学生数と特待生数の適正化により、令和3年度 51.3%、令和4年度 48.2%と減少傾向にあります。

(c) 活動区分資金収支計算、収支、翌年度繰越支払資金

活動区分資金収支計算書において、本業の教育活動の資金収支差額は 314,656 千円で前年度の 330,409 千円から 4.8%減と微減しました。

一方、施設整備等活動は、施設設備の整備を自己資金で賄えなかったことから資金収支差額が 45,757 千円の支出超過、その他の活動も借入金等返済支出の計上額が大きいことなどから資金収支差額が 154,512 千円の支出超過となりました。結果としては、本業の教育活動で生み出したキャッシュで教育活動以外の活動を賄うことが可能であったことから、支払資金は 114,388 千円増加しました。また、支払資金の増減額に前年度繰越支払資金を加えた翌年度繰越支払資金は、予算額 949,019 千円に対して 59,232 千円（6.2%）増の 1,008,251 千円でした。

■令和5年度資金収支計算書

収入の部

単位:千円

	予算額	決算額	差異	構成比
①学生生徒等納付金収入	1,499,702	1,501,738	2,036	77.6%
②手数料収入	13,289	13,619	330	0.7%
③寄付金収入 ※	29,708	38,004	8,296	2.0%
④補助金収入 ※	274,040	267,246	△ 6,794	13.8%
⑤資産売却収入	0	1,647	1,647	0.1%
⑥付随事業・収益事業収入	18,647	16,979	△ 1,668	0.9%
⑦受取利息・配当金収入	14	15	1	0.0%
⑧雑収入	96,438	95,112	△ 1,326	4.9%
⑨借入金等収入	0	0	0	0.0%
実収入合計	1,931,838	1,934,362	2,524	100.0%
⑩前受金収入	633,234	632,283	△ 951	
⑪その他の収入 ※	609,582	731,508	121,926	
⑫資金収入調整勘定 ※	△ 688,072	△ 691,324	△ 3,252	
前年度繰越支払資金	893,863	893,863		
収入の部合計	3,380,445	3,500,692	120,247	

支出の部

単位:千円

	予算額	決算額	差異	構成比
⑬人件費支出	997,682	1,008,875	11,193	53.8%
⑭教育研究経費支出	575,192	525,067	△ 50,125	28.0%
⑮管理経費支出	126,503	132,876	6,373	7.1%
⑯借入金等利息支出	6,474	6,491	17	0.3%
⑰借入金等返済支出	144,040	142,148	△ 1,892	7.6%
⑱施設関係支出	30,048	27,558	△ 2,490	1.5%
⑲設備関係支出	21,712	30,534	8,822	1.6%
実支出合計	1,901,651	1,873,550	△ 28,101	100.0%
⑳資産運用支出 ※	12,056	82,283	70,227	
㉑その他の支出 ※	684,896	722,347	37,451	
㉒予備費	301		△ 301	
㉓資金支出調整勘定 ※	△ 167,479	△ 185,738	△ 18,259	
翌年度繰越支払資金	949,019	1,008,251	59,232	
支出の部合計	3,380,444	3,500,692	120,248	

注1) ※印のある科目は、複数の活動区分に分かれます。

活動区分資金収支計算書

単位:千円

	予算額	決算額	差異	備考	
教育活動	教育活動資金収入計	1,926,774	1,932,231	5,457	①②③④⑥⑧
	教育活動資金支出計	1,699,678	1,666,818	△ 32,860	⑬⑭⑮
	差引	227,096	265,413	38,317	
	調整勘定等	41,597	49,243	7,646	⑩⑪⑫⑲⑳
	教育活動資金収支差額	268,693	314,656	45,963	
施設整備等活動	施設整備等活動資金収入計	5,050	52,115	47,065	③④
	施設整備等活動資金支出計	51,764	108,096	56,332	⑱⑲⑳
	差引	△ 46,714	△ 55,981	△ 9,267	
	調整勘定等	0	10,225	10,225	⑫⑲⑳
	施設整備等活動資金収支差額	△ 46,714	△ 45,757	957	
小計	221,979	268,900	46,921		
その他の活動	その他の活動資金収入計	577,199	649,226	72,027	⑦⑨⑪
	その他の活動資金支出計	744,022	803,782	59,760	⑯⑰⑲⑳
	差引	△ 166,823	△ 154,555	12,268	
	調整勘定等	0	44	44	
	その他の活動資金収支差額	△ 166,823	△ 154,512	12,311	
	支払資金の増減額	55,156	114,388	59,232	
	前年度繰越支払資金	893,863	893,863	0	
	翌年度繰越支払資金	949,019	1,008,251	59,232	

(2) 事業活動収支計算書

資金収支計算書が資金活動の安全性を表すのに対して、事業活動収支計算書は採算性、財政の健全性の有無を表します。事業活動収支計算書の目的は、①1年間の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにすること、②基本金組入後の収支均衡の状態を明らかにすることです。①の目的に沿って事業活動収入と事業活動支出を、教育活動収支、教育活動外収支（教育活動以外の経常的な活動）、特別収支（臨時的な活動）に区分して表示するとともに、②の目的に沿って当年度収支差額により収支均衡の状態を表示しています。

また、事業活動収支計算書は、収益と費用を対比することで利益を計算する企業会計の損益計算書に相当するものです。学校法人は、営利を目的とするものではありませんが、永続的な学校法人の運営には収支バランスが重要な条件となります。長期的な支出の超過（純資産の食い潰し）を生じることは、その永続性を脅かすものとして許されません。

(a) 事業活動収入

事業活動収入は、学校法人の負債とならない収入、すなわち全て自己資金となる収入です。純資産が増加する取引であり、資金収支計算における借入金等収入、前受金収入及びその他の収入は、学校法人の負債となる収入の増加であるため、事業活動収入とはなりません。

事業活動収入は、学生生徒等納付金や補助金、雑収入など資金収支計算書とほぼ同様の科目と事業活動収入における特有の科目である現物寄付、徴収不能引当金戻入額などを計上します。予算額 1,933,680 千円に対して 1,816 千円(0.1%)増の 1,935,496 千円、前年度比で 99,231 千円(5.4%) 増でした。

(b) 事業活動支出

事業活動支出は、学校法人の全ての支出のうち純資産の減少となる支出をいいます。資金収支計算における借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出、資産運用支出及びその他の支出は、資産の減少と増加、資産の減少と負債の減少が等価の関係で生じた取引で、いずれも純資産の減少にはつながらないため、事業活動支出とはなりません。

事業活動支出は、人件費など資金収支計算とほぼ同様の科目と事業活動支出における特有の科目である退職給与引当金繰入額、減価償却額、資産処分差額、徴収不能額等をもって計算し、予算額 1,848,440 千円に対して△19,940 千円(1.1%)減の 1,828,500 千円、前年度比で 120,843 千円(7.1%)増でした。

(c) 収支

経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を表す教育活動収支差額は、予算額 86,330 千円に対し 25,730 千円(29.8%)増、前年度比 27,121 千円(19.5%)減の 112,060 千円、経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を表す教育活動外収支差額は、予算額△6,460 千円に対し 16 千円 (0.2%) 減の△6,476 千円、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、予算額 79,870 千円に対し、25,714 千円 (32.2%) 増、前年度比で 25,974 千円 (19.7%) 増の 105,585 千円でした。経常的な収支は引き続き、収入超過の状態を維持しています。

なお、臨時的な収支を表す特別収支差額は、予算額 5,671 千円に対し 4,259 千円減の 1,412 千円でした。

また、重要な経営指標である基本金組入前当年度収支差額は、教育活動収支の収入超過額が大幅に増加したことにより、予算額 85,240 千円から 21,756 千円 (25.5%) 増の 106,996 千円となり、平成 25 年度から継続して収入超過の状態を維持しています。

しかしながら、122,347 千円の基本金を組入れたことにより、基本金組入後の当年度収支差額は 15,351 千円の支出超過となり、収支は均衡しない結果となりました。

さらに、前年度までに繰越した収支差額に当年度収支差額を加算して計上する翌年度繰越収支差額は、△5,385,272 千円でした。

■令和5年度事業活動収支計算書

単位：千円

科目		予算額	決算額	差異	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,499,702	1,501,738	2,036
		手数料	13,289	13,619	330
		寄付金	24,868	38,004	13,136
		経常費等補助金	273,830	266,779	△ 7,051
		付随事業収入	18,647	16,979	△ 1,668
		雑収入	96,438	95,222	△ 1,216
		教育活動収入計	1,926,774	1,932,341	5,568
	事業活動支出の部	人件費	977,915	1,014,482	36,568
		うち退職給与引当金繰入額	85,621	106,143	20,522
		教育研究経費	724,331	662,735	△ 61,596
		うち減価償却額	149,139	137,668	△ 11,471
		管理経費	136,637	142,483	5,846
		うち減価償却額	10,134	9,607	△ 527
		徴収不能額等	1,561	581	△ 980
教育活動支出計	1,840,444	1,820,281	△ 20,162		
教育活動収支差額		86,330	112,060	25,730	
教育活動外収支	の部 事業収入	受取利息・配当金	14	15	1
		教育活動外収入計	14	15	1
	の部 事業支出	借入金等利息	6,474	6,491	17
		教育活動外支出計	6,474	6,491	17
教育活動外収支差額		△ 6,460	△ 6,476	△ 16	
経常収支差額		79,870	105,584	25,714	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	6,892	3,139	△ 3,753
		うち施設設備寄付金	4,840	0	△ 4,840
		うち現物寄付	1,842	2,656	814
		うち施設設備補助金	210	468	258
		過年度修正額	0	16	16
		特別収入計	6,892	3,139	△ 3,753
	の部 事業支出	資産処分差額	1,221	1,584	363
		特別支出計	1,221	1,728	507
		特別収支差額	5,671	1,412	△ 4,259
予備費		301		△ 301	
基本金組入前当年度収支差額		85,240	106,996	21,756	
基本金組入額合計		△ 200,222	△ 122,347	77,875	
当年度収支差額		△ 114,982	△ 15,351	99,631	
前年度繰越収支差額		△ 5,626,076	△ 5,369,921	256,155	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 5,741,058	△ 5,385,272	355,786	
事業活動収入計		1,933,680	1,935,496	1,816	
事業活動支出計		1,848,440	1,828,500	△ 19,940	

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、事業活動収支計算書とあわせて財政の状態を表す計算書類ですが、事業活動収支計算が1年間の事業活動収入と事業活動支出の内容と収支均衡の状態を明らかにすることが目的であるのに対し、貸借対照表は、年度末における資産、負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の状態、すなわち年度末時点でどの様な資産がどれだけあり、どの様な負債がいくらあるかなど、学校法人の保有する財産の権利義務関係（保有状況）を表示し、その結果、純資産（正味財産）がいくらになっているか（財政状態）を表すものです。

(a) 資産の部

資産の部は、前年度末 8,887,702 千円に対して、84,016 千円（0.9%）増の 8,971,718 千円です。資産のうち建物は、大学における実習 G 棟・H 棟上防水工事、実習 B 棟トイレ・内部改修工事、実習 C 棟内部改修・電気設備工事に係る支出、幼稚園における第 1 保育棟の改修工事による増加を減価償却額が上回ったことにより減少しました。また、現金預金は 114,388 千円増加しました。

その結果、前年度に比べて、固定資産は 88,506 千円（1.1%）減少、流動資産は 172,522 千円（18.5%）増加、資産の部合計は前年度末に比べて増加しました。

(b) 負債の部

負債の部は、前年度末 2,437,045 千円に対して 22,980 千円（0.9%）減の 2,414,065 千円です。負債のうち、固定負債は、長期借入金の減少などにより前年度末 1,555,532 千円に対して 138,074 千円（9.7%）減の 1,417,458 千円です。また、流動負債は未払金や前受金等の増加により、前年度末 881,513 千円に対して 115,094 千円（13.1%）増の 996,607 千円です。その結果、負債の部合計は前年度末に比べて減少しました。

(c) 純資産の部

資産が 84,016 千円増加し、負債が 22,980 千円減少したことにより、純資産（基本金＋繰越収支差額）は、前年度末 6,450,657 千円に対して、106,996 千円（1.7%）増の 6,557,653 千円でした。

【注釈】

- 1 金額は、千円未満の端数については四捨五入し、全て千円単位で表記しているため、この資料内の表の合計欄の金額やこの資料と計算書類の金額が一致しない場合があります。
- 2 この資料でいう予算額とは、令和 3 年度補正後の予算のことをいいます。
- 3 決算と予算との差異は、計算書類では「予算額－決算額」で計算し表示しますが、この計算方法・表示方法では、決算額が予算額を超過した場合に「△（マイナス）」として表示され誤解を生じる場合がありますので、この資料では「決算額－予算額」で計算し表示しています。

■ 貸借対照表 (令和6年3月31日)

単位：千円

科 目		本年度末	前年度末	増減
資産の部	固定資産	7,864,814	7,953,320	△ 88,506
	有形固定資産	7,523,472	7,613,230	△ 89,758
	土地	4,514,109	4,514,109	0
	建物	2,558,543	2,643,262	△ 84,719
	構築物	163,562	171,552	△ 7,990
	教育研究用機器備品	82,509	80,763	1,746
	その他	204,749	203,544	1,205
	特定資産	313,371	301,645	11,726
	退職給与引当特定資産	60,858	50,856	10,002
	大学同窓会奨学基金引当特定資産	52,100	50,378	1,722
	減価償却引当特定資産	200,414	200,411	3
	その他の固定資産	27,970	38,445	△ 10,475
	流動資産	1,106,905	934,383	172,522
	現金預金	1,008,251	893,863	114,388
未収入金	93,202	32,397	60,805	
その他	5,452	8,123	△ 2,671	
資産の部合計	8,971,718	8,887,703	84,015	
負債の部	固定負債	1,417,458	1,555,532	△ 138,074
	長期借入金	976,572	1,120,452	△ 143,880
	長期未払金	1,171	2,342	△ 1,171
	退職給与引当金	438,345	432,738	5,607
	預かり保証金	1,370	0	1,370
	流動負債	996,607	881,514	115,093
	短期借入金	145,772	144,040	1,732
	前受金	632,283	597,641	34,642
その他	218,552	139,833	78,719	
負債の部合計	2,414,065	2,437,045	23,110	
純資産の部	基本金	11,942,925	11,820,578	122,347
	第1号基本金	11,826,925	11,704,578	122,347
	第4号基本金	116,000	116,000	0
	繰越収支差額	△ 5,385,272	△ 5,369,921	△ 15,351
	翌年度繰越収支差額	△ 5,385,272	△ 5,369,921	△ 15,351
純資産の部合計	6,557,653	6,450,657	106,996	
負債及び純資産の部合計	8,971,718	8,887,702	84,016	

2 経年比較

(1) 資金収支の推移

単位 千円

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,475,606	1,432,074	1,451,749	1,501,738
	手数料収入	14,316	14,918	14,244	13,619
	寄付金収入	52,257	25,320	24,645	38,004
	補助金収入	291,925	290,608	283,844	267,246
	資産売却収入	0	0	0	1,647
	付随事業・収益事業収入	11,736	16,449	18,597	16,979
	受取利息・配当金収入	50	29	14	15
	雑収入	14,399	48,963	40,118	95,112
	借入金等収入	1,518,400	60,000	0	0
	前受金収入	567,535	551,540	597,641	632,283
	その他の収入	763,125	677,248	641,753	731,508
	資金収入調整勘定	△ 565,923	△ 621,077	△ 585,518	△ 691,324
	前年度繰越支払資金	666,317	823,197	884,075	893,863
	収入の部合計	4,809,742	3,319,268	3,371,162	3,500,692
資金収入計(収入の部合計－前年度繰越支払資金)		4,143,425	2,496,071	2,487,087	2,606,829
支出の部	人件費支出	796,861	868,812	872,860	1,008,875
	教育研究経費支出	681,243	549,888	539,712	525,067
	管理経費支出	109,410	101,702	123,195	132,876
	借入金等利息出	7,033	8,839	7,637	6,491
	借入金等返済支出	448,100	215,784	169,884	142,148
	施設関係出	289,941	149,698	71,798	27,558
	設備関係支出	61,616	24,748	29,283	30,534
	資産運用支出	3,481	3,340	2,056	82,283
	その他の支出	1,710,090	680,949	759,426	722,347
	予備費	0	0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 121,229	△ 168,566	△ 98,552	△ 185,738
	翌年度繰越支払資金	823,197	884,075	893,863	1,008,251
	支出の部合計	4,809,742	3,319,268	3,371,162	3,500,692
	資金支出計(支出の部合計－翌年度繰越支払資金)		3,986,545	2,435,193	2,477,299
資金収入計－資金支出計		156,880	60,878	9,788	114,388

注1 令和2年度の借入金等収入及び借入金等返済支出には市中金融機関借換額 330,000 千円を含む。

注2 令和3年度の借入金等収入及び借入金等返済支出には市中金融機関借換額 48,400 千円を含む。

(2) 活動区分資金収支の推移

単位 千円

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,475,606	1,432,074	1,451,749	1,501,738
		手数料収入	14,316	14,918	14,244	13,619
		特別寄付金収入	33,657	16,541	17,989	37,887
		一般寄付金収入	24	28	1,910	118
		経常費等補助金収入	262,562	286,994	283,604	266,779
		付随事業収入	11,736	16,449	18,597	16,979
		雑収入	14,078	48,840	39,958	95,112
		教育活動資金収入計	1,811,978	1,815,844	1,828,051	1,932,231
	支出	人件費支出	796,861	868,812	872,860	1,008,875
		教育研究経費支出	681,243	549,888	539,712	525,067
		管理経費支出	109,410	101,702	123,195	132,876
		教育活動資金支出計	1,587,514	1,520,401	1,535,767	1,666,818
	差引	224,464	295,443	292,284	265,413	
	調整勘定等	42,900	△ 15,915	38,125	49,243	
教育活動資金収支差額	267,364	279,527	330,409	314,656		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	18,576	8,751	4,746	468
		施設設備売却金収入	29,363	3,614	240	1,647
		減価償却引当特定資産取崩収入	71,704	60,174	0	50,000
		施設整備等活動資金収入計	119,643	72,539	4,986	52,115
	支出	施設関係支出	289,941	149,698	71,798	27,558
		設備関係支出	61,616	24,748	29,283	30,534
		減価償却引当特定資産繰入支出	32	15	4	50,004
		施設整備等活動資金支出計	351,588	174,460	101,084	108,096
	差引	△ 231,945	△ 101,921	△ 96,098	△ 55,981	
	調整勘定等	△ 944,919	45,061	△ 55,192	10,225	
施設設備等活動資金収支差額	△ 1,176,864	△ 56,861	△ 151,290	△ 45,757		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 909,500	222,667	179,119	268,900	
その他の活動による資金収支	収入	小計	2,169,198	635,968	594,979	649,211
		うち借入金等収入	1,518,400	60,000	0	0
		受取利息・配当金収入	50	29	14	15
		過年度修正収入	321	122	160	0
	その他の活動資金収入計	2,169,569	636,119	595,153	649,226	
	支出	小計	1,096,608	788,943	756,792	797,291
		うち借入金等返済支出	448,100	215,784	169,884	142,148
		借入金等利息支出	7,033	8,839	7,637	6,491
		その他の活動資金支出計	1,103,642	797,782	764,429	803,782
	差引	1,065,927	△ 161,663	△ 169,276	△ 154,555	
	調整勘定等	453	△ 126	△ 55	44	
その他の活動資金収支差額	1,066,381	△ 161,789	△ 169,331	△ 154,512		
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		156,880	60,878	9,788	114,388	
前年度繰越支払資金		666,317	823,197	884,075	893,863	
翌年度繰越支払資金		823,197	884,075	893,863	1,008,251	

(3) 事業活動収支の推移

単位 千円

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,475,606	1,432,074	1,451,749	1,501,738
		手数料	14,316	14,918	14,244	13,619
		寄付金	33,681	16,569	19,935	38,004
		経常費等補助金	262,562	286,994	283,604	266,779
		付随事業収入	11,736	16,449	18,597	16,979
		雑収入	14,197	48,960	40,078	95,222
		教育活動収入計	1,812,098	1,815,964	1,828,207	1,932,341
	事業活動支出の部	人件費支出	785,031	859,760	875,759	1,014,482
		うち退職給与引当金繰入額	-4,202	30,990	43,054	106,143
		うち退職金	1,305	8,170	△ 39	4,716
		教育研究経費	798,625	685,386	678,369	662,735
		うち減価償却額	117,382	135,498	138,621	137,668
		管理経費	119,124	111,836	133,316	142,483
		うち減価償却額	9,715	10,134	10,121	9,607
徴収不能額等	1,561	7,229	1,582	581		
教育活動支出計	1,704,341	1,664,211	1,689,026	1,820,281		
教育活動収支差額		107,757	151,754	139,181	112,060	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	50	29	14	15
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	50	29	14	15
	支出の部	借入金等利息	9,063	8,839	7,637	6,491
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	9,063	8,839	7,637	6,491
教育活動外収支差額		△ 6,983	△ 8,810	△ 7,623	△ 6,476	
経常収支差額		100,774	142,943	131,558	105,584	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	49,336	14,329	8,044	3,139
		うち施設設備寄付金	18,576	8,751	4,746	0
		うち施設設備補助金	29,363	3,614	240	468
	特別収入計	49,336	14,329	8,044	3,139	
	支出の部	資産処分差額	1,127	966	10,991	1,584
		その他の特別支出	0	0	3	144
		特別支出計	1,127	966	10,994	1,728
特別収支差額		48,209	13,363	△ 2,950	1,412	
〔予備費〕		(0)	(0)	(0)	(0)	
基本金組入前当年度収支差額		148,983	156,306	128,608	106,996	
基本金組入額合計		△ 184,040	△ 299,180	△ 305,200	△ 122,347	
当年度収支差額		△ 35,057	△ 142,873	△ 176,592	△ 15,351	
前年度繰越収支差額		△ 5,040,119	△ 5,075,176	△ 5,218,049	△ 5,369,921	
基本金取崩額		0	0	24,721	0	
翌年度繰越収支差額		△ 5,075,176	△ 5,218,049	△ 5,369,921	△ 5,385,272	
(参考)						
事業活動収入計		1,861,484	1,830,322	1,836,265	1,935,496	
事業活動支出計		1,712,502	1,674,015	1,707,657	1,828,500	

(4) 貸借対照表の推移

単位 千円

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
資産の部	固定資産	8,043,840	8,009,350	7,953,320	7,864,814
	有形固定資産	7,639,296	7,668,985	7,613,230	7,523,472
	土地	4,514,109	4,514,109	4,514,109	4,514,109
	建物	2,709,666	2,688,704	2,643,262	2,558,543
	構築物	123,826	182,062	171,552	163,562
	教育研究用機器備品	92,891	83,225	80,763	82,509
	管理用機器備品	4,195	6,205	8,244	7,734
	図書	188,145	190,094	191,904	194,771
	車両	5,757	4,586	3,415	2,244
	建設仮勘定	708	0	0	0
	特定資産	358,354	300,519	301,645	313,371
	退職給与引当特定資産	50,850	50,855	50,856	60,858
	大学同窓会奨学基金引当特定資産	46,938	49,257	50,378	52,100
	減価償却引当特定資産	260,566	200,407	200,411	200,414
	その他の固定資産	46,190	39,846	38,445	27,970
	流動資産	869,358	933,078	934,383	1,106,905
現金預金	823,197	884,075	893,863	1,008,251	
未収入金	41,566	46,774	32,397	93,202	
前払金	4,575	2,229	6,026	5,452	
短期貸付金	20	0	0	0	
仮払金	0	0	0	0	
立替金	0	0	2,096	0	
資産の部合計	8,913,198	8,942,428	8,887,702	8,971,718	
負債の部	固定負債	1,822,950	1,697,843	1,555,532	1,417,458
	長期借入金	1,379,376	1,264,492	1,120,452	976,572
	長期未払金	4,683	3,512	2,342	1,171
	退職給与引当金	438,891	429,839	432,738	438,345
	長期預り金	0	0	0	1,370
	流動負債	924,505	922,536	881,513	996,607
	短期借入金	210,784	169,884	144,040	145,772
	未払金	109,001	165,162	97,494	180,883
	前受金	567,535	551,540	597,641	632,283
	預り金	37,066	35,610	41,295	37,426
科学研究費補助金預り金	120	340	1,043	243	
負債の部合計	2,747,455	2,620,379	2,437,045	2,414,065	
純資産の部	基本金	11,240,919	11,540,098	11,820,578	11,942,925
	第1号基本金	11,124,919	11,424,098	11,704,578	11,826,925
	第4号基本金	116,000	116,000	116,000	116,000
	繰越収支差額	△ 5,075,176	△ 5,218,049	△ 5,369,921	△ 5,385,272
	翌年度繰越収支差額	△ 5,075,176	△ 5,218,049	△ 5,369,921	△ 5,385,272
純資産の部合計	6,165,743	6,322,049	6,450,567	6,557,653	
負債及び純資産の部合計	8,913,198	8,942,428	8,887,702	8,971,718	

(5) 財務比率の推移

単位:%

	項目	計算式	令和3年度	令和4年度	令和5年度	全国平均 大学法人 (医歯系除く)	全国平均 大学法人 (規模別)	全国平均 大学法人 (芸術系単科)
貸借対照表 関係比率	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	89.6	89.5	87.7	86.1	82.1	85.4
	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	85.8	85.7	83.9	57.8	57.9	56.4
	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	3.4	3.4	3.5	23.2	21.1	22.1
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	10.4	10.5	12.3	13.9	17.9	14.6
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	19.0	17.5	15.8	6.5	5.2	5.3
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	10.3	9.9	11.1	5.3	5.4	5.5
	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	△ 16.1	△ 14.0	△ 12.2	28.2	27.2	30.8
	運用資産余裕比率 (※単位:年)	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△ 0.3	△ 0.1	0.0	2.0	1.4	2.6
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	70.7	72.6	73.1	88.3	89.4	89.2
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	△ 58.9	△ 60.4	△ 60.0	△ 15.5	△ 21.7	△ 16.9
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	126.7	123.3	119.9	97.6	91.9	95.8
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	99.9	99.3	98.6	90.9	86.8	90.4
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	101.1	106.0	111.1	263.2	330.3	263.6
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	29.3	27.4	26.9	11.7	10.6	10.8
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	41.4	37.8	36.8	13.3	11.9	12.1
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	160.3	149.6	159.5	372.0	577.1	365.5
	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	11.8	11.8	13.9	73.3	23.1	75.8
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	89.1	90.5	91.5	97.2	98.1	97.6
	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額 (図書除く)}}{\text{減価償却資産取得価額 (図書除く)}}$	38.9	39.3	39.7	55.0	57.3	43.0
	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	21.0	20.7	22.6	78.2	66.9	77.1
事業活動 収支計算書 関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.3	47.9	52.5	50.9	51.6	51.6
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.0	60.3	67.6	69.3	141.2	65.6
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	37.7	37.1	34.3	36.1	41.5	35.9
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.2	7.3	7.4	8.5	9.9	10.6
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.5	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.5	7.0	5.5	4.6	△ 2.8	5.2
	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	109.3	79.7	88.9	104.7	110.1	84.8
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.9	79.4	77.7	73.5	36.5	78.7
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.5	1.5	2.1	1.9	5.8	0.5
	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.9	1.1	2.0	1.4	5.1	0.4
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	15.9	15.5	13.8	14.4	11.4	10.6
	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	15.8	15.5	13.8	14.2	11.1	10.7
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	16.3	△ 16.6	△ 6.3	8.9	6.6	△ 11.8
	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	8.7	8.8	8.1	11.5	8.6	13.3
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	7.9	7.2	5.5	4.2	△ 3.2	1.6
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	8.4	7.6	5.8	2.3	△ 6.1	△ 1.9
	※	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	15.4	18.1	16.3	13.4	4.0
	負債率	$\frac{\text{総負債}-\text{前受金}}{\text{総資産}}$	23.1	20.7	19.9			7.0

※活動区分資金収支計算書関係比率

出典: 日本私立学校振興・共済事業団発行

「令和5年度版 今日の私学財政 大学・短期大学編」

3 借入金等の状況

(1) 借入金等の状況

令和5年度末時点における日本私立学校振興・共済事業団並びに市中金融機関からの借入金の状況は次の表のとおりです。

借入金内訳表

単位 円

借入先	令和5年度		備考
日本私立学校振興・共済事業団	期首残高	700,000,000	
	当期借入額	0	
	当期返済額	39,040,000	
	期末残高	660,960,000	
市中金融機関 りそな銀行 京都中央信用金庫	期首残高	564,492,000	
	当期借入額	0	
	当期返済額	103,108,000	
	期末残高	461,384,000	
合計	期首残高	1,264,492,000	
	当期借入額	0	
	当期返済額	142,148,000	
	期末残高	1,122,344,000	

(2) 寄付金の状況

令和5年度の寄付金の状況については、次の表のとおりです。

寄付金内訳表

単位 円

	特別寄付金	一般寄付金	現物寄付	合計
学校法人	300,000	112,000	0	412,000
大学	36,586,769	5,640	2,655,638	39,248,047
幼稚園	1,000,000	0	0	1,000,000
合計	37,886,769	117,640	2,655,638	40,660,047

注 特別寄付金一般寄付金は資金収支計算書、現物寄付は事業活動収支計算書に計上しています。

(3) 補助金の状況

(a) 国庫補助金（成安造形大学）

令和5年度の国庫補助金は、次の表のとおりです。

令和5年度 国庫補助金 実績表

単位 円

部門	補助金の名称		補助金額
大 学	私立大学等経常費補助金	一般補助	136,227,000
		特別補助	2,800,000
		計	139,027,000
	授業料等減免費交付金		86,488,200
国庫補助金 合計			225,515,200

(b) 地方公共団体補助金（成安造形大学・成安幼稚園）

令和5年度の地方公共団体補助金は、次の表のとおりです。

令和5年度 地方公共団体補助金実績表

単位 円

部門	補助金の名称	補助金額
大 学	結核健康診断費補助金（大津市）	85,000
	大津市内大学食料支援事業補助金（大津市）	2,370,810
	JR 湖西線沿線地域各駅の魅力向上事業に係る補助金 （湖西線利便性向上プロジェクト推進協議会）	300,000
	彦根マラリアート （一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム）	142,000
	ムダモルフォーゼ （一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム）	142,000
	大学計	3,039,810
幼稚園	京都府私学運営費補助金	36,346,000
	京都府学校安全特別対策事業補助金	153,670
	京都府教育支援体制整備事業費補助金 （園務改善のための ICT 化支援）	74,000
	京都府教育支援体制整備事業費補助金 （京都府幼児教育の質の向上のための緊急環境整備（新 型コロナウイルス感染症対策））	265,000
	京都府私立幼稚園物価高騰等臨時支援事業費補助金	381,000
	京都府未入園児保育支援事業費補助金	7,000
	向日市私立幼稚園設備費補助金	210,000
	向日市私立幼稚園特別支援教育振興補助金	980,000
	向日市私立幼稚園教材教具購入補助金	184,500
	社団法人京都府私立幼稚園連盟 キンダーカウンセ ラー（派遣）補助	60,000
	社団法人京都府私立幼稚園連盟 読書習慣事業に伴 う各園の絵本等購入補助	30,000
幼稚園 計	38,691,170	
地方公共団体補助金 合計		41,730,980

(4) 関連当事者との取引等の状況

全役員及び全専任職員を対象として調査を行いました。その結果、取引があったとの回答があったのは理事長のみでした。

本法人と理事長との間では、成安造形大学学生専用アパートメント YOHAKU 並びに YOHAKU II に係る独占使用契約を締結し、「独占使用権料」「管理運営料」の支払いが生じています。

(5) その他（有価証券・学校債・収益事業・学校法人間財務取引等）

退職給与引当特定資産並びに減価償却引当特定資産の一部を有価証券で保有しています。学校債・収益事業・学校法人間財務取引等については、いずれも報告すべきことはありません。

保有有価証券一覧

種類	約定日 償還日	期間	約定金額 利率	格付	備考
京都府債	令和 5 年 10 月 6 日 令和 10 年 10 月 18 日	5 年	50,000,000 円 0.433%	なし	
京都市債	令和 6 年 1 月 19 日 令和 11 年 1 月 26 日	5 年	20,000,000 円 0.314%	ムーディーズ A1	グリーン ボンド

注1 京都府債は減価償却引当特定資産、京都市債は退職給与引当特定資産。

注2 京都市債については、ホームページ上において「京都市グリーンボンドへの投資について」として、投資表明をしています。

令和5年度

京都成安学園事業報告書



令和6年5月29日

学校法人京都成安学園



〒520-0248

滋賀県大津市仰木の里東四丁目3番1号

TEL 077-574-2111

FAX 077-574-2120
